第二部

「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」

第二部　作業説明

第二部

薬剤師としての社会の貢献・医療への貢献

私達の目指すもの

第一部では、

World Café

私たちの歩み
過去、現在、そして未来

自分の歩みを話せましたか？

いろんな歩みが聞けましたか？

薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献
私達の目指すもの

これからの作業は、

1. まずは、自己紹介と、
   World Café で印象に残ったこと：10分
   （1人1分）
2. KJ法
   カードの語るところをよく聴きながら：60分
3. 島ごとに内容の具体化
   島を選んで、できるだけ多く：50分

---

2. KJ法（60分）
カードの語るところをよく聴きながら

KJ法って

大学でやったことありますか？

様々な問題点

KJ法
情報を徹底して収集
↓
語るところを聞く
↓
情報の整理

問題解決

朝日新聞夕刊
平成16年3月4日

川喜田　二郎　博士
(Kawakita Jirou)

民族地理学者
文化人類学者

様々な問題点

ＫＪ法

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理

問題解決

今回はテーマは、
"問題点" ではない？

ＫＪ法

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理

問題解決

今回はテーマは、
"問題点" ではない？

ＫＪ法

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理

薬剤師としての社会への貢献
・医療への貢献
私達の目指すもの

ＫＪ法

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理

薬剤師としての社会への貢献
・医療への貢献
私達の目指すもの

ＫＪ法もどきかも？

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

↓

情報の整理

薬剤師としての社会への貢献
・医療への貢献
私達の目指すもの

ＫＪ法もどきかも？

情報を徹底して収集

↓

語るところを聞く

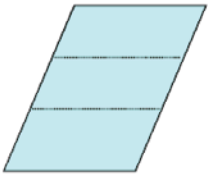
↓

情報の整理

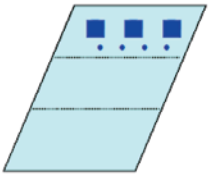
個人個人ではなく、
６年制卒業生として

情報の共有化

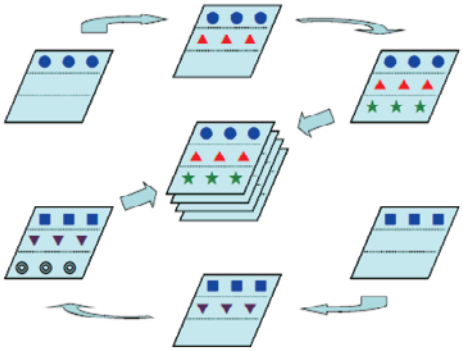
カード記載上の注意点



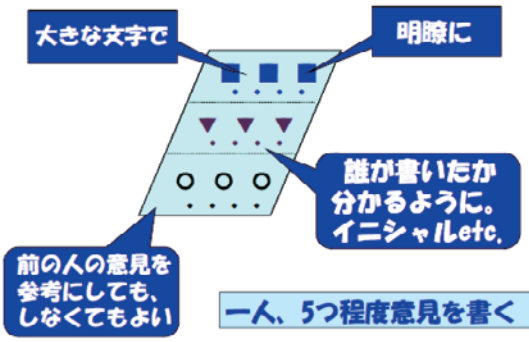
カード記載上の注意点



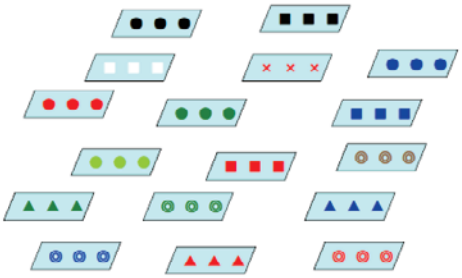
情報を徹底して収集

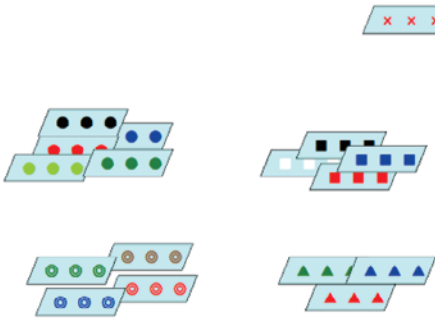


カード記載上の注意点

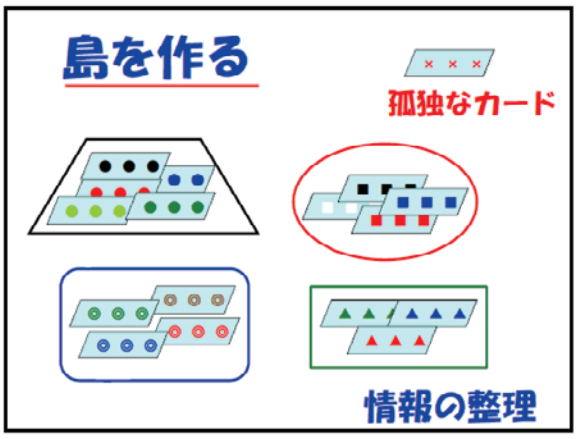


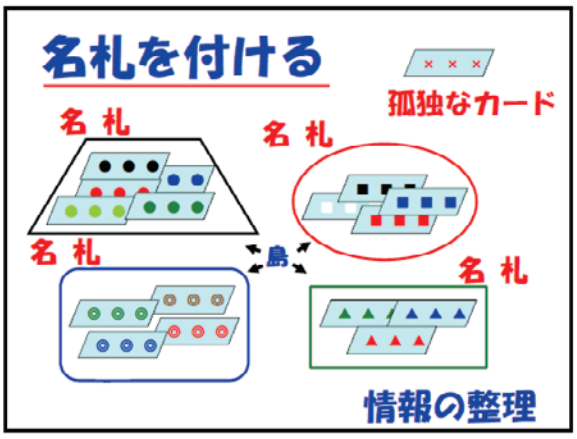
語るところを聞く！

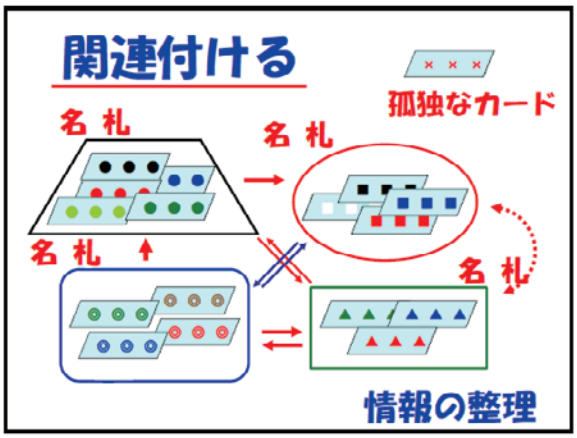


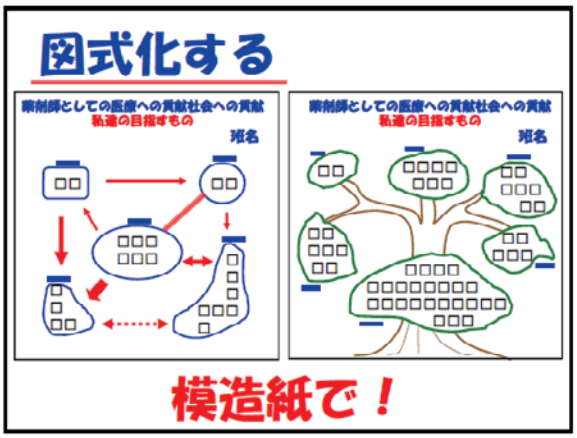


情報の整理









通常のＫＪ法はここまで。

でもこのセッションでは
続きがあります・・・

3. 島ごとに内容の具体化する。
島を選んで、できるだけ多く。

・島の内容の具体例をあげてみよう。
例えば、いつ、どこで、どのように・・・

・複数の島について取り組んでみよう。

プロダクト（○○グループ）

薬剤師としての社会貢献・医療貢献：私達の目指すもの

1. ○○○○（島のタイトル）
- □□□□□□□□□（具体的に）
- □□□□□□□□□
- □□□□□□□□□

2. ○○○○（島のタイトル）
- □□□□□□□□□（具体的に）
- □□□□□□□□□
- □□□□□□□□□

模造紙で！

ＩA班

〈薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私たちの目指すもの（KJ 法によるプロダクト)〉

第二部では、「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私たちの目指すもの」というテーマについて、KJ 法を用いて討議を行った。まず、各個人が自由に意見をカードに記述し、それらについて記述者自身が説明を行ったうえで、類似した内容ごとに島に分類した。

分類としては、記述された意見が含有している方向性を【医療】および【社会】の 2 つの側面から島分けし、さらにそれぞれの島を細分化した。

【医療】の枠では、「患者さんのために」、「薬学専門家として」、「チーム医療」という小島に分類することができ、【社会】の枠では「在宅」、「教育」という小島を中心に分類し、その他の明確な細分化が難しい（細かくなりすぎるもの）については散りばめるように配置した。また、【医療】とも【社会】とも関与するものについては、中間に位置するものとして配置し、「薬薬連携」、「災害時」、「コンプライアンス」、「創薬・育薬」に細分化した。さらに中心には薬剤師のあるべき姿を表す態度として、「なんでもやります、できます」というカードを配置した。

次に、これらの島の中から「チーム医療」、「患者さんのために」、「在宅」、「創薬・育薬」について、内容の具体化を行った。

以下では、各島のタイトルとカードの内容、および具体化したものについてはその内容、説明を示す。

➢ 医療の面から見た貢献

■ <u>患者さんのために</u>

・質の高い薬剤師
・患者さんの近くに
・より臨床的に！
・お客様の満足度↑
・医療の信頼と安心の向上
・現場に出ること（患者様のそば）
・患者様に求められる
・患者様が自発的に声をかけられる存在
・患者にとって身近な薬剤師

（具体例）：医者に話せない事も相談される薬剤師になる。

この島では、患者さんとの距離がより近い薬剤師を目指すという意見が数多く見られた。その中でも、例えば患者さんが医師には話しづらいことであっても、薬剤師になら話してもらえるような信頼感と安心を確立していく必要がある、という意見が挙がった。これをこの島の具体的な内容として提示することとした。

■ <u>薬学専門家として</u>

・病棟にマストな人材に！！
・医療チームの中で絶対的な存在

この島については、以下の「チーム医療」にも関与する内容ではあるが、薬物治療において薬理学・薬物動態学・薬剤学などの専門性を発揮するという、とりわけ薬剤師の質的な側面を表すものとして、このような分類とした。

■ チーム医療

・チーム医療
・他の医療関係者との架け橋
・真に垣根のないチーム医療を！
・病棟での業務に特化した薬剤師
・薬剤師による投与設計
・Dr の最良の相談相手
・薬のスペシャリストとしての信頼感

（具体例）：カンファレンスにおいて（ex. NST）、患者さんに対して各医療スタッフが討議する中で、薬剤師の発言が必要とされる。

この島では薬剤師としての専門性を発揮しつつも、それを他の医療スタッフと情報共有するという、まさしく他の医療関係者との架け橋となるべきである、という意見が多く挙げられた。この島の内容を吟味するにあたり、カードに内容こそ記載されてはいないが、すべて根底にコミュニケーション能力が必要とされるものであり、記述者全員が実習などを通じて、その重要性を感じていることが伺えた。内容の具体化については、チームにおける薬物治療の立案・改善に対して、薬剤師が積極的に介入していく良き例として、カンファレンスでの状況を提示した。

➢ 医療と社会の中間（どちらにも貢献するもの）

■ 薬薬連携

・薬薬連携
・病院、薬局間での連携

■ 災害時

・災害時
・災害時でも必要とされる薬剤師

■ コンプライアンス

・健康食品など飲み合わせの情報提供
・お薬手帳の有効活用

■ 創薬・育薬

・医療現場と創薬の連携
・育薬に携わる
・臨床から創薬へのフィードバック
・飲みやすい薬（子供、お年寄り….etc.）

（具体例）：現場の声（子供やお年寄りにとって飲みにくい薬など）を MR を通して企業の創薬に反映させる

この島では、医薬品の価値が有効性・安全性という【医療】という側面だけでなく、使いやすさや使用時の情報といった【社会】的な側面からも規定されるということで、それに関与する薬剤師の貢献としても中間に位置するものとして配置した。特に、副作用情報

や服用時の問題などは、上記のコンプライアンスや薬薬連携などにも関与するものであり、絶えず臨床現場からのフィードバック→創薬での改善→臨床現場での使用・フィードバック→創薬.....というように連携が取られていなければならない。

・なんでもやります、できます

これは細分化せず、薬剤師としての根幹の心構えとして、本プロダクトの中心に据えた。

➢ 社会的な面から見た貢献

■ 明確な分類はしていないもの

・働きがい。むくわれる！
・やりがいのある仕事（臨床研究など含む）
・地域の潤滑油
・薬剤師の職を知ってもらう
・学校薬剤師などの幅広い地域貢献
・地域の質問箱
・医療の監視
・セルフメディケーションの普及
・OTC の強化

これらは、【社会】の中でも、地域医療ややりがい、医療の監視というように多岐にわたったため、ここでは以下の「在宅」および「教育」を【社会】における薬剤師のあり方として強調し、それ以外のカードについては社会を構成するものとして明確な分類は行わなかった。しかし、薬学的な専門性に関わらず、地域への啓蒙活動（セルフメディケーションの普及など）や治験のエビデンスを維持するなどの医療の監視者としての立場の重要性を指摘する意見が挙がった。

■ 教育

・薬学部生への教育
・学校（大学）における薬剤師の育成
・教育

■ 在宅

・患者の家族のケア
・在宅医療の充実
・在宅医療
・バイタルサインのとれる薬剤師
・ターミナルケアへの貢献
・在宅への積極的介入

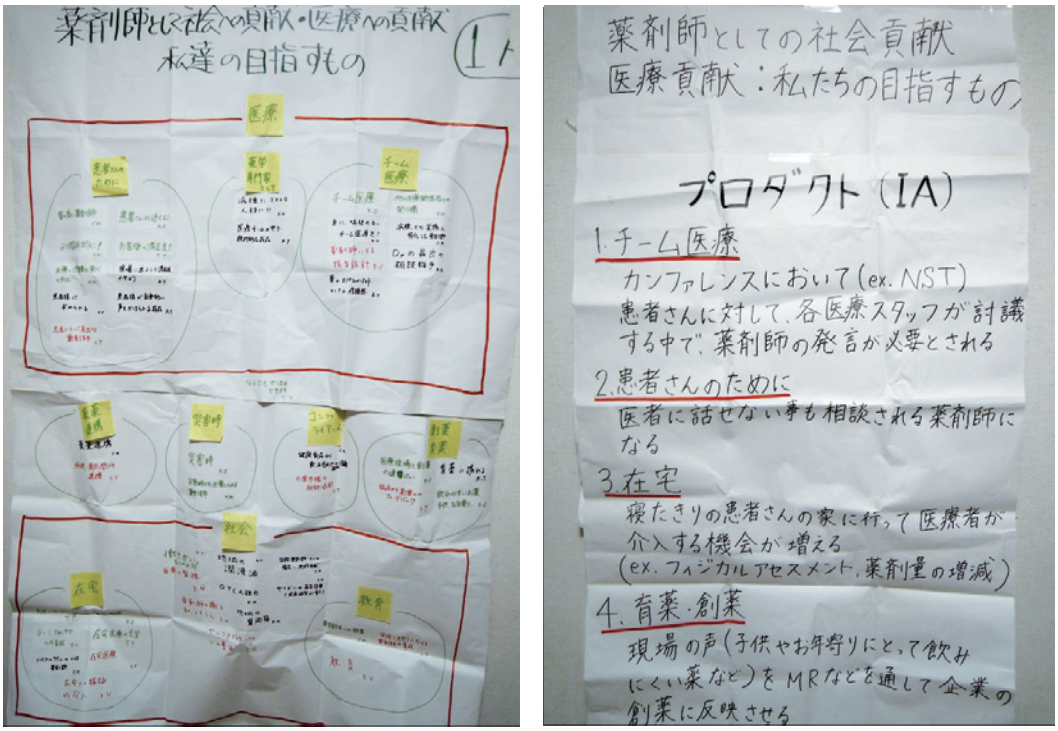
（具体例）：寝たきりの患者さんの家に行って医療者が介入する機会が増える（ex. フィジカルアセスメント、薬剤量の増減）

この島では、薬剤師が【社会】に貢献する場面として、今後は在宅医療が主となると意見が挙げられた。また、在宅医療においては、医師への薬物治療に関する進言ももちろんであるが、患者の家族とのコミュニケーションや、脈拍などについて薬剤師がフィジカルアセスメントを行う必要性があるなど、この島特有の意見も多く見られた。具体例としては、今後、在宅医療において薬剤師が業務の可能性を拡大する必要があるとの意見をまと

めた。

✓　感想・考察

この第 2 部では、KJ 法を用いて、我々が目指す薬剤師像を分類し、関連付けた。実際に作業を行い感じたことは、カードに記載された内容の一つ一つが自分たちが実習で経験したこと、感じたことの延長線上に存在しているということであった。それは、個人の受け取り方や価値観の違いにより、差はあるものの、今回このように島で分類してみることで、根底には同じ問題意識が存在していることが明瞭化され、自分の考える理想の薬剤師像について改めて考え、見直すことができたと思う。



プロダクト（左図：KJ 法　右図：具体例）

ＩB班

『第二部　薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献－私たちの目指すもの－』報告書

1. 序論

第二部のディスカッションは、KJ 法を用いて行いました。私たちＩB 班では、「医療の満たされていないニーズを満たす」というテーマが今、最も重要視すべき事であると考え、私たちの目指すものとしました。このテーマを中心に掲げた結果、その他の意見を「医療の満たされないニーズを満たすために必要とされること」と「医療の満たされないニーズを満たすことで可能になると考えられること」の 2 つの内容に分類できました。ここで、それぞれのテーマに分類された意見を１つずつあげていきます。

2. 結果・考察

『医療の満たされていないニーズを満たす』

・在宅医療での薬の管理
　→在宅医療に薬剤師があまり関与できていない。薬の管理などは、薬を一番理解している薬剤師が行うことが望ましく、もっと介入していくべき
・病院の救急や手術室における薬剤師の配置
　→薬剤師は中毒の患者などに迅速に対応できるため、救急に必要であると考えられる。手術室にも薬剤師を配置することで薬に関することをその場で助言できるため、時間の短縮につながる
・医師と対等に話し合う（薬剤師の地位向上）
　→薬剤師も医師と同等に意見を主張するべき
・臨床知識や技術の向上に努める
　→知識や技術の向上によって、より確信のある情報を提供できる
・処方提案などを積極的に行う
　→ある病態に関して適切な薬を選択できる薬剤師が積極的に処方提案を行うことで迅速かつ安全な医療の提供につながる
・医療になくてはならない存在となる
　→薬剤師の医療において必要不可欠な存在であることを示す
・職域の拡大を目指す
　→薬剤師が介入することでよりスムーズな医療を提供できる場面がある
・疾病予防に力を入れ、医療費削減
　→起こりうる疾病を予防し、無駄のない医療を提供することで医療費削減につながる

『医療の満たされないニーズを満たすために必要とされること』

「付加価値の活用」

・自主的に学ぶ

→様々な知識を持つことで、薬剤師としての存在価値があがる

・最新情報を収集し、実際の治療に活かす

→常に新しい情報を収集しておくことで、その情報を活かせる可能性がある

・付加価値のある薬剤師

→薬の調剤だけでなく薬剤師だからこそできる事を身につけておく

・町の科学者

→昔、薬剤師はこのような呼び名を持っていたが、今でもそうあるべきである

・専門薬剤師

→ある疾患を専門とすることで、深い知識を活かし、他の薬剤師が気付けないような細かい点にも注意を向けられる

・病院・薬局薬剤師の知識均一化

→現在の病院と薬局の薬剤師は普段の業務の違いから知識に偏りがあるが、その偏りをなくすことで、より確実性の高い医療を提供できる

・問題解決能力

→現場では常に状況が変化し、その変化に伴って生まれる問題に迅速に対応していく能力が必要とされる

・ジェネラリスト＋スペシャリスト

→薬剤師がスペシャリストであるのは当然のことで、実際にはジェネラリストである必要もある

・OTC 薬の知識をつける

→OTC 薬の知識が少ない薬剤師が多いが、薬の専門家である以上、OTC 薬についても知っておくべきである。

・漢方の知識をつける

→最近では、漢方に力をいれている医療機関もあるが、それに対応するには現在の薬剤師の漢方に関する知識が浅い

「信頼」

・心を癒す

→病気だけでなく、心も癒すべき

・コミュニケーション

→コミュニケーションによって生まれる信頼がある

・患者さんから信頼されるためのコミュニケーションと知識

→患者さんとコミュニケーションをとり、薬剤師に十分な知識があることが伝われば、より大きな信頼を得ることができる

・患者さんとの対話
→患者さんとの対話によって、今までわからなかった新しい情報を得られる可能性がある
・薬の不安を取り除く
→患者さんにとって未知である薬に関する不安を、薬の専門家である薬剤師が取り除くことができる
・在宅訪問
→在宅訪問で、より近い関係性を築くことで信頼も大きなものになる
・プライマリ・ケア
→全ての知識をいかすことで、普段の体調変化などにも気付け、プライマリ・ケアに貢献できる
・薬の事だけでなく、人として信頼される
→薬剤師であるまえに一人の人として信頼されることも重要なことである

「薬剤師のための環境整備」
在宅訪問の点数アップ
→在宅訪問など、手薄な医療に関して点数アップなどの変化があれば、より多くの薬剤師を投入できる可能性につながる

『医療の満たされないニーズを満たすことで可能になると考えられること』
「実は難しい！薬の適正使用に貢献」
・スムーズかつ確実な調剤
→薬剤師業務の大前提である調剤を的確に行う必要がある
・薬の適正使用
→必要のない処方や副作用に気付き、適正使用を推進する
・病態を知る
→病態を知ることで、処方された薬が本当に適切であるかを判断する
・精神科への介入
→精神科への薬剤師の介入によって、処方薬が多くなりがちな精神科の処方を適切なものに導ける
・薬のインターネット販売
→薬をインターネットで販売できるようになり、便利ではあるが、このことを問題視し、起こりうる危険を予測し防がなければならない
・薬物乱用防止
→違法薬物だけではなく、医薬品の乱用などの防止にも貢献してく

「地域住民の健康サポート」
・健康講座

→地域住民に健康推進に対する意識付けをする

・豊富な知識の活用

→薬はもちろん、疾患などの様々な知識を活かし、地域医療に貢献する

・教育

→地域の人々やこれから社会に出ていく学生などにも薬剤師の業務や重要性を知ってもらう

・薬に関連することについての啓発活動

→薬に関することを、わかりやすく説明する

・セルフメディケーションの実践

→地域の方々の健康を維持するためのセルフメディケーション実践に寄与する

・生活習慣病の減少

→生活習慣病の予防や減少を目指すことで、医療費の削減にもつながる

・ジェネリック推進

→ジェネリック医薬品を推奨することで大幅な医療費削減を目指す

・災害時の対応

→災害時の設備が完全でない状態でも迅速に対応できる能力が必要

・僻地に対する医療

→医療が手薄な地域でのより良い医療の提供

・六年生教育の成果を社会に示す

→六年間薬学を学んできた成果を世間に示す

・医療費削減

→まだまだ削減につながる点がたくさんあることを認識し、医療費の削減に努める

「医療の発展に貢献」

・臨床研究

→臨床においても研究を続けていくことでさらなる医療の発展に貢献する

・薬の新たな使い方…リポジショニング

→従来の使い方だけではなく、他の薬理作用の利用を研究することで、医療の発展に貢献する。

以上の話し合いをもとにポスターの作成を行いました（Fig. 1）。

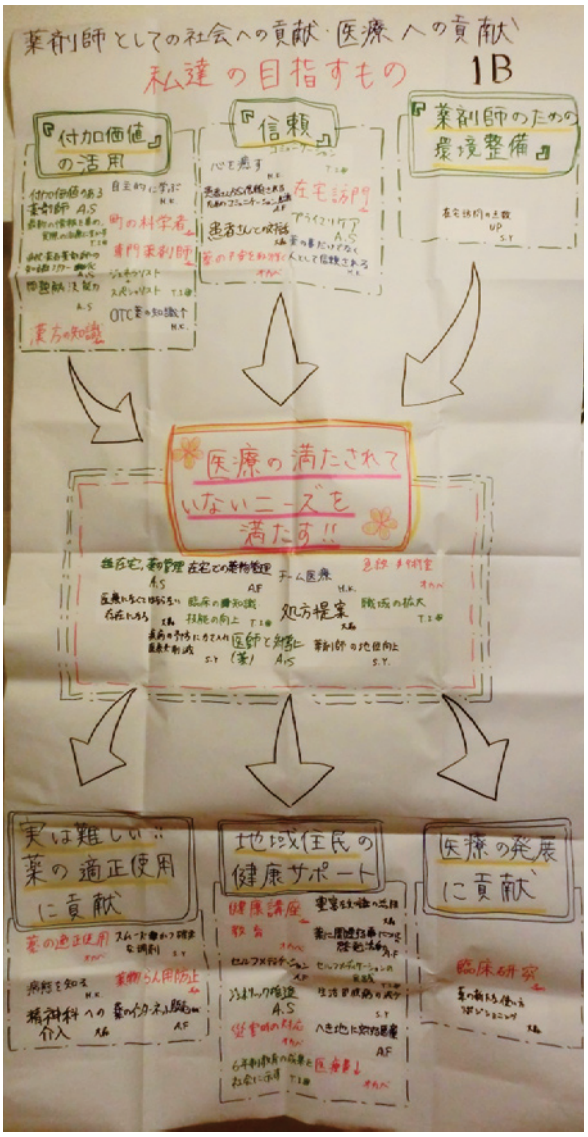


Fig. 1　第 2 部　ディスカッションにより作成したポスター

4. 結論

『医療の満たされないニーズを満たす』というテーマを中心に掲げたことで、結果的に話の流れが非常に掴みやすい議論を行うことができたと考えられます。今回のディスカッションにより、“現在の医療にはまだ改善の余地も多い”という事実に薬剤師自身が気付き、変革を行っていかなければ、より良い医療の提供の一端を担うことはできないという事を実感しました。また、これから必要とされる薬剤師は今まで以上に包括的な知識と技能を備え持っていなければならないということがわかり、あらためて生涯学習の重要性に気付かされました。

このような意義深いディスカッションを共に行ったＩＢ 班のメンバー、また、ご指導いただいたＩＢ班タスクフォースの橋詰先生に心から感謝申し上げます。

ＩC班

第二部は“薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献”と題して私達の目指すものを KJ 法を用いて討論した。

ＩC 班では、第一部の World Café で個々が話し合った内容を共有し、そして今までの経験や体験をもとに、それぞれが社会や医療において必要とされる薬剤師像を赴くままにカードに書いた。一通り書き出した後は、グループ全員でそれぞれのカードの意味するものを考え、共通する意味を持つもの同士で島を作った。このように島を作ることにより、私たちが目指す薬剤師としてどのような要素が重要なのかを具体化することが出来た。

島は合計６つでき、島の名前を薬剤師の教育、患者中心のチーム医療、薬剤師の臨床研究、薬剤師の能力向上、薬剤師による情報発信、患者に関する情報収集とした。それぞれの島の関連性を見て、私たちの目指す薬剤師像をレストランで働く人と重ね合わせ図式化することとした。レストランで例えた理由としてレストランには料理を作る人（医師、薬剤師、看護師、etc)、料理を運ぶ人（薬剤師)、料理を食べるお客様（患者様）がいる。そして、最高のおもてなしをするには、なんといっても料理（治療）やチームワーク、接客の質が大切であると考え、医療に共通するものを感じたからである。

以下に各島の内容と簡単な説明を記載する。

薬剤師の臨床研究

・活動を学会などで報告
・臨床研究の充実
・新しい医療への貢献
・臨床の問題点を知り、研究する
・研究→フィードバックしてく時、多角的な方面からみてく

患者中心のチーム医療

・チーム医療
・多職種について知る
・勉強会を開いて多職種と情報共有
・必要な人に医療提供
・医師と対等に情報交換
・リハビリ等、多職種とのクスリをと下りて連携すること！
・他の医療者と交流（患者さんについて）
・幅広い活躍の場を生かす　病院⇔薬局、企業⇔病院

薬剤師の教育が必要

・薬剤師を育てる
・臨床現場をよく知る教育者の育成

・教育者
・薬剤師の地位向上
・実習生の指導
・教育の選択（大学の特色を生かす）

薬剤師の能力向上

・スペシャリストでありジェネラリスト
・知識に偏らない人
・薬のエキスパート！
・専門性発揮
・薬＋α！食事などでも薬学の知識を活かす
・薬だけでなく病気に関する知識を増やす

薬剤師による情報発信

・情報発信する
・患者さんが治療に積極的に・・・
・地域の人々への情報発信
・地域の人と健康講座
・薬と食べ物の相互作用を広めてく！
・患者さんに自分の病気の事について知ってもらう
・予防医療！
・予防と対策の勉強会
・一般の人たちへの薬の知識を教える

患者に関する情報収集

・情報収集する
・患者背景に合わせた服薬指導・処方提案
・健康チェック（副作用チェック）
・コミュニケーションを通してその人に適したケアをする→QOL 向上
・患者さんのささいな変化に気づく
・積極的にベッドサイドへ行く
・患者さんが気軽に話せるように接する
・バイタルサインが分かるように

“医療ミスゼロ”というのもあったが、どの島にも分類されず話し合いの結果、６つの島がうまく連携をとることで成し遂げられる一つの目標ということになった。

これらを実践することで患者様に喜ばれる医療が提供できると考えた。

そして後半は、それらの島が社会や医療に貢献できる要素を持つのかを再検討し、その中でもカードの多い島が私たちの目指す薬剤師像のキーワードになると思い、薬剤師による情報発信と患者に関する情報収集の２つについて更に深く考えた。

それぞれ 5W1H を考えてみたところ、なかなか意見がまとまらず時間がかかってしまったため患者に関する情報収集と医療に関する情報発信の２グループに分けてそれぞれプロダクトを作ることにしました。

患者に関する情報収集

私たちが患者さんの情報を得るためには、患者さんとの会話の中で見つけられるものと、患者さんが自覚していない症状や問題点が、検査値や家族からの情報によって見つけられるものなどがあるのではないかと話あった。では具体的に私たちが知りたいものは何なのか？を話し合ったところ、服薬したあとの状態の変化などがあげられた。服薬したことによる効果はでているのか？副作用の症状はでていないか？などを知ることで有効性と安全性の評価をしたいと考えた。また、患者情報を収集するにあたり、患者さんから得るものと、患者さんの家族などから知る方法などがあることが分かり、患者さん情報を収集するには患者さんから直接情報を得る方法と家族などから間接的に情報を得る方法などが或ことが分かった。
そして、情報収集は、どのように患者さん情報を誰から入手するかの３点に絞って以下のようにまとめた。

・どのように（方法）
　検査値、雑談、ききとり、バイタルサイン、表情
・患者さん情報（知りたいものは何か）
　状態の変化、服薬状況、生活環境
・誰から入手するか（直接か間接か）
　直接的であれば、ベッドサイド、在宅、窓口、店頭
　間接的であれば、医療スタッフ、家族、カルテ

医療に関する情報発信

情報発信については、患者への情報発信はもちろんのこと、得られた患者情報を医療スタッフ間で情報を共有するという意味でもスタッフ間で情報発信をしていく必要があると話し合った。まず、誰に情報発信をするのか？から話し合い、次いでどのようにどんな情報を発信するのかを以下のように話し合った。

・患者にたいして、勉強会やベッドサイドなどを利用し薬の使い方や注意点を伝える。
・家族に対して、面談や勉強会を利用し服薬の重要性を伝える。
・医療スタッフに対して、勉強会やカンファレンスを利用して患者情報などを伝える。
・地域に対して、勉強会などを利用し病気の予防法を提案する。
・企業に対して、報告書を作成するなどして副作用情報や要望を伝える。
・薬剤師に対して、勉強会や学会などを利用して薬薬連携や独自の取り組みを伝える。

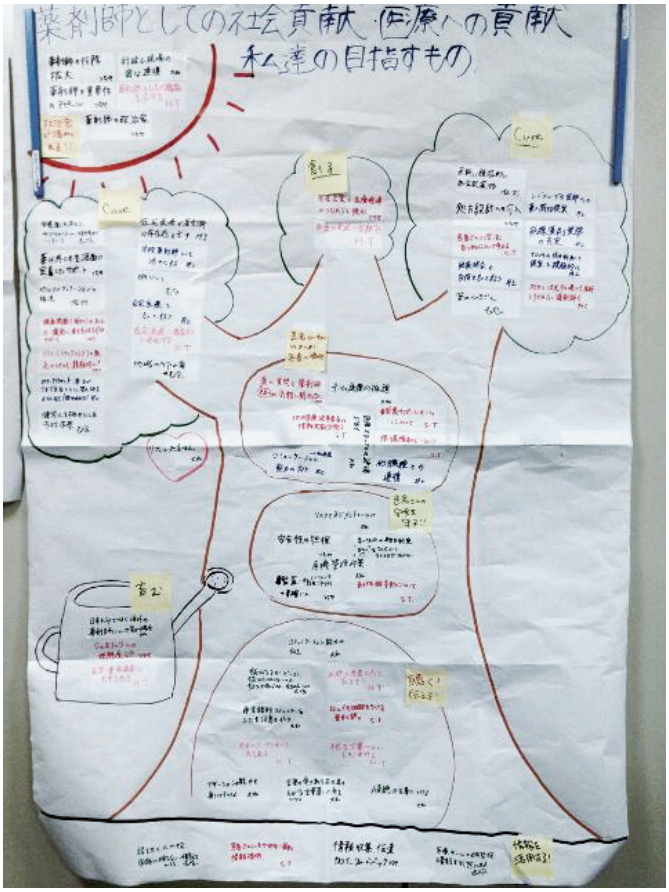
これらの議論を通して、薬剤師がもっと薬のスペシャリストとして活躍できるようになれば、医療の質が向上し結果的には社会への貢献、医療への貢献に繋がっていくのではないかと私たちの班ではまとまった。

ⅡA班

第二部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」
～KJ 法によるプロダクト～

「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」について KJ 法に従い議論を行った。その後、KJ 法の中で作成した島の中から２つを選択し、議論を深めていった。

１．議論の経緯　～KJ 法～



まず、ひとりひとりの意見をカードに記入し、それぞれのカードを記入者の意見を聞きながら、9 つの島に分類し、それぞれの島に名札を付けた（下記参考）。そして島と島を関連付けることで、私たちの目指す薬剤師を大きな木に見立てることとした。

①はじめに「情報」を土に見立て、その膨大な量の情報源から必要な情報を過不足なく収集する能力が重要であると考えた。そのためには「聴く！伝える！」というスキルが必要であり、患者や医師とコミュニケーションを適切に行い、何でも相談を受けることのできる関係性を構築する事をまず木の根幹におくこととした。

②次に、そのコミュニケーションにより得られた事柄から、薬剤師として副作用の早期発見などの危機管理対策を行い「患者の安全を守る！！」ことが重要であると考えられた。

③そして、薬剤師として患者の安全を守り、「患者さん中心のよりよい医療の提供」を行うために重要となるのは、チーム医療であるという結論に達した。そこからチーム医療には病院薬剤師に着目したものと、地域の薬剤師に着目したもの、また創薬を行う企業ともチームとして連携することでより良い医療を提供できるのではないかと考え、木の幹となっている「患者さん中心のよりよい医療の提供」の島から、木の枝を３つに分岐させた。

③-1：急性期の医療を担う病院薬剤師についての島は「Cure」とし、TDM や医薬品の剤形を知っていることを強みに投与計画、処方設計に介入してくことが良質な医療に繋がるという結論に至った。

③-2：地域の薬剤師についての島には「Care」という名前をつけ、薬だけでなく、サプリメントや OTC、アルコール、経腸栄養剤など生活面にも密着したケアを行うことで、セルフメディケーションの推進や健康問題などの悩みでも気軽に相談してもらえるようなサポートを行っていく事が重要ではないかと考えた。

③-3：「創る」という島では新薬の発展に貢献するため、製薬企業と医療現場とのつながりを強化し、現場のニーズに合った新薬、剤形の医薬品の開発が進展することでより良い医薬品、より良い医療の提供に結びつくとこが考えられた。

④そして、このような優秀な木（薬剤師）を育成するためには、「育む！」こと、また法的な整備が整えられることが挙げられた。そのため、「育む」という島を木の成長に重要な水に、そして「政治家で活躍する」という島を太陽に見立てることで木を育て、より良い薬剤師を世に出すことが薬剤師としての社会へ、また医療への貢献に繋がってゆくという結論に達した。

以下、各カードの意見と分類した島のタイトル、プロダクトを示す。

- **情報を活用する**

・医療チームの調整役
・情報を武器にする
・情報収集・伝達・加工・フィードバック
・患者さんにわかりやすい情報提供
・話を聞く人の役
・医師の拾えない情報を拾う

- **聴く！伝える！**

・コミュニケーション能力の向上
・飲めてるかどうか、飲みたくないのか、飲み忘れるのか、飲めないのか
・医師と患者の間を取り持つ
・何でも相談を受ける薬剤師
・非言語的コミュニケーションにも注意を払う
・患者のメンタル面にも気を配る
・平易な言葉づかいを心がける
・傾聴力を身に着ける
・言葉の受け取り方はおのおの違う。言葉づかいに気を付ける
・アサーションの能力を身に着ける

- **患者さんの安全を守る！！**

・リスクマネジメントについて
・安全性の担保
・危機管理対策について

・監査、相互作用の確認
・副作用予防について
・副作用の早期発見。効くをみるより効き過ぎ、効かない

- **患者さん中心のよりよい医療の提供**

・チーム医療の推進
・患者の薬の質問を薬剤師が気軽に聞けるように
・他の医療従事者との情報共有（交換）
・コミュニケーション能力の向上→チーム医療
・医療スタッフとの連携をはかる
・栄養サポートチームについて
・疼痛緩和について
・多職種との連携

- **Cure**

・医師に積極的に処方提案する
・処方設計への介入
・患者さんにあった剤形について考える
・疑義紹介を自信をもって行う
・薬の引き算
・レジメンでの医師への薬に関する提案
・病棟薬剤業務の充実
・TDM の投与計画。提案を積極的に。
・処方決定する場にも医師だけではなく薬剤師も

- **創る！**

・製薬企業と医療現場とのつながりを強化
・新薬の発展に貢献する

- **Care**

・在宅医療で薬剤師の存在感を示す
・学校薬剤師として活躍する
・まちづくり
・在宅医療をもっと行う
・在宅医療に積極的に参加する
・地域のケアの要
・栄養面も考える。サプリメントから経腸までいろいろ
・薬以外にも生活面に密着したサポート

・セルフメディケーションの推進
・健康問題（悩み）があったら薬局に来てもらえるようなサポート
・OTC（ドラッグストア）の販売のときにも積極的に
・OTC、サプリメント、酒など様々なことに答えられるようになる（飲み合わせ）
・健常人を相手にした予防医療

- **政治家で活躍する**

・薬剤師の業務の拡大
・薬剤師の重要性のアピール
・行政と現場の密な連携
・薬剤師としての職能を広げる
・薬剤師の政治家

- **育む！**

・日本だけでなく海外の薬剤師について学ぶ機会
・ジェネリックの理解度 up
・医学薬学教育に携わる

- **孤独なカード**

・リフィル処方箋

２．議論の経緯　～島の内容の具体化～

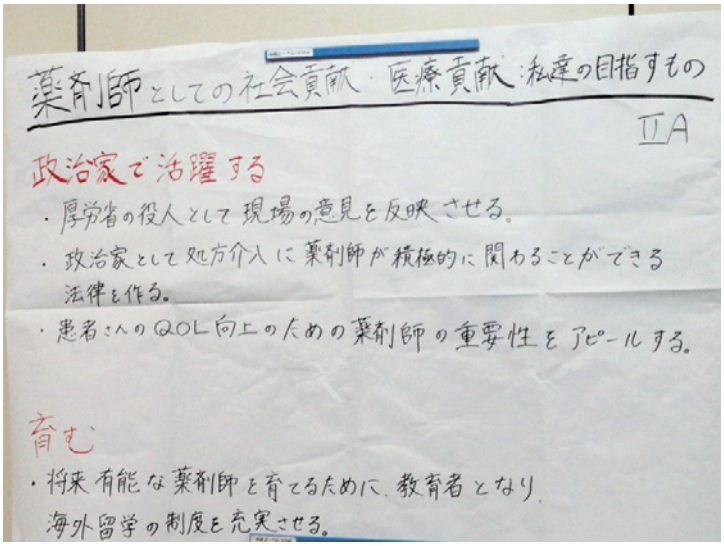
私たちは、「政治家で活躍する」と「育む！」の２つの島を選択し、具体的な議論を深めました。

①「政治家で活躍する」

厚生労働省の役人としての視点と政治家としての視点から議論した。まず役人としては、現場の意見を行政に適切に反映させるため、政策の設備を行う。そして政治家は最終的に法律へと発展させ、薬剤師が積極的に処方介入に関わることができるような体制を整える、という意見でまとまった。また、法設備を行うためには世論を巻き込む必要があるという意見から、まずは国民から薬の専門家としての薬剤師の重要性について理解を得るため、SNS を用いたり、メディア等を巻き込んだアピールを行うことの必要性や、現場の意見を行政へと適切に盛り込むためには現状では限界があることから、役人自身が現場を経験、もしくは交流できるような制度の設備も必要なのではないかという議論も行われた。

②「育む」

将来有能な薬剤師を育てるために教育者となること、また、これからは日本に留まらず海外の薬剤師の現状も学ぶことのできるよう、留学制度を充実させ、薬剤師の別の職能について学ぶ機会を設けることについて議論された。


薬剤師としての社会貢献・医療貢献：私達の目指すもの
IIA
政治家で活躍する
・厚労省の役人として現場の意見を反映させる。
・政治家として処方介入に薬剤師が積極的に関わることができる法律を作る。
・患者さんのQOL向上のための薬剤師の重要性をアピールする。
育む
・将来有能な薬剤師を育てるために、教育者となり、海外留学の制度を充実させる。

ⅡB班

【方法】

KJ 法を用いて行った。「薬剤師としての社会貢献・医療への貢献　私たちの目指すもの」について個々がカードを記載し、集まったカードをキーワードが同じもので島を分け、関連付けを行った。その後、選んだ島の内容を具体化し、プロダクトを作成した。

【議論の経緯】

まず、キーワードが同じものを分けた結果、8 個の島と 1 つの孤独なカードができた。孤独なカードのタイトルを「コミュニケーション」とし、他の島との関連を議論した結果、他の 8 個の島すべてに必要になってくるものという結果に至った。8 個の島はそれぞれ「“薬剤師”の軸」「地位向上」「新しいものを目指して」「衛生」「地域」「より実務に沿った教育」「他職種とのつながり」「薬学部 6 年制による患者への還元」とタイトルをつけた。

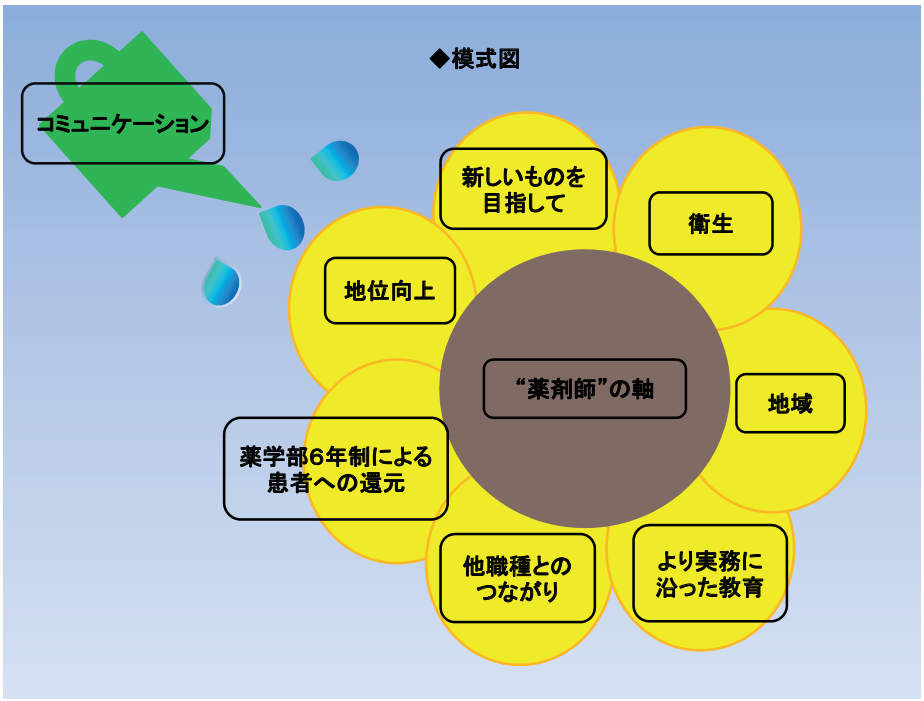
ⅡB 班では「“薬剤師”の軸」を中心に他の 7 つの島が、花びらのように関連していると考え、ひまわりの形に図式化した。また、「コミュニケーション」は、花を咲かせるための水のような存在であると考え、花に降り注ぐ水（ジョウロ）として図式化した。

その後、「薬学部 6 年制による患者への還元」と「地位向上」について、自らの経験なども参考にしながら具体的な内容について議論を行った。

【議論の結果】

1） KJ 法

以下に、KJ 法によって作成した図と、それを模式化したものを示す。



◆各島のカードについて

「“薬剤師”の軸」

- 薬の知識をみんなで共有する
- 患者さんのアドヒアランスの向上
- 一次予防をしっかり行う地域 OTC 薬局
- 患者が気軽に相談できる地域薬局をつくる
- セルフメディケーションの推進
- 薬の相談にのり、患者の不安解消
- 薬いがいの、生活の相談も受けられる存在
- 薬の専門家として、有効性・安全性の情報提供
- 薬に対する絶対的な知識

「地位向上」

- 薬剤師の地位向上
- より実務を理解できる薬剤師
- 他の医療従事者に薬剤師を理解してもらう
- 薬剤師の可能性の拡大
- みんなに愛されて頼られる薬剤師

「新しいものを目指して」

- 新しい薬の創製
- 新しいフィールドづくり

「衛生」

- 薬以外に、地域社会の情報や環境に目を向ける
- 地域環境の整備（水質検査など・・・）
- 小中学校への薬物教育
- 地域における町の科学者として、幅広い人の相談をうける
- 薬だけでなく衛生的な面でカバーする

「地域」

- 在宅医療への貢献

「より実務に沿った教育」

- 後輩薬剤師の指導
- 薬剤師能力の底上げ
- これから薬剤師になる学生のみちしるべ

「他職種とのつながり」

- 他職種のスタッフとたくさんコミュニケーションをとる
- 専門薬剤師として、チーム医療に貢献
- 薬だけでなく、他の職種の知識も取り入れる

「薬剤部 6 年制による患者への還元」

- 臨床に出て患者さんとの距離を縮める
- 病院、薬局、研究職など、いろんな場所に散った仲間との連携
- 薬局、病院の連携
- 副作用が早期発見できる
- 基礎から臨床まで幅広い知識を持って働く
- “真”の医薬品の適正使用の判断
- 共同薬物管理業務（CTDM）の実施
- IMR 測定や吸入薬等の服薬指導、相互作用確認が出来る薬剤師外来
- 処方箋からの患者把握ではなく、患者把握を行ってから処方箋の確認を

「コミュニケーション」

- 会話のできる人、相談にのれる人

「“薬剤師”の軸」という考えは、6 年制教育になってからのものではなく、現在活躍している 4 年制教育を受けた薬剤師が培い、行ってきたものであると考えたからである。6 年制になりこの軸をさらに確立されたものとしていこうと考えて、花の中心に置くことにした。また、「地位向上」「新しいものを目指して」「衛生」「地域」「より実務に沿った教育」「他職種とのつながり」「薬剤部 6 年制による患者への還元」は、病院・薬局の実務実習を経験し、現在臨床に出ている薬剤師の立場や業務を自らの目で見てきた上で、個々が感じたことなどが意見として多く出された。「“薬剤師”の軸」を 6 年制になったことにより、さらに外へ幅広く広げていくことが求められていると考え、花びらとした。「コミュニケーション」については、他の 8 個の島を行うために薬剤師だからではなく、一人の人として身につけておかなければいけない能力であると考えて花に降りかかる水にしようと考えた。

2) 島の具体化

「薬剤部 6 年制による患者への還元」と「地位向上」についての具体的な内容は以下である。

「薬剤部 6 年制による患者への還元」

- 薬局で、患者状態（カルテの共有）を把握した上での処方監査及び指導
- 病院で、患者状態（バイタル、検査値、薬全般の管理）、退院時指導、経過観察（入院→退院）
- 病院、薬局での薬剤師外来（INR 測定、相互作用、喘息、糖尿病、ガン等・・）をして、薬剤師から医師への情報提供
- 相談会（薬局、公民館、公認の薬の館、出張、ドラッグストアなど・・・）
- 薬薬薬薬薬…連携

「地位向上」

- 他職種のカンファに出席
- 薬剤師同士のカンファ（全体、科ごと）
- 他職種、患者さんの話し相手（＝通訳）
- 医療全体の流れを把握する（診察→看護・栄養・処方→退院→薬局・在宅）
- 患者さんの家に行って、生活に密着した服薬チェック
- 病院・薬局・在宅でのフィジカルアセスメント
- 薬局・病院での交換研修（＝能力差をなくす）

6 年制になったことによって薬剤師の地位向上につながる。また、地位向上によって薬剤師の役割が増え、患者さんへ還元できるのではないかと考え、この 2 つの島を選んだ。6 年制になったことにより、より臨床的な知識を学べる環境が作られているため、今までの薬剤師のイメージである「薬を集めて渡してくれる人」から「なんでも相談にのってくれる人」にシフトしていかなければと考えた。患者がわざわざ病院に足を運ばなくてもいいように、薬剤師でも行える血糖値や血圧の測定など、患者以外の誰でも足を運べるような場所を作っていけたらと考えた。そこで得た情報を薬剤師から発信していくことにより、患者情報の共有がよりよいものになるのではないかと考えた。しかしながら、多くの人は、薬剤師がどのようなことが出来るのか理解していないのが現状である。そのために、自ら他職種、地域などと連携を深めるために、カンファレンスや地域の行事等に参加したり、患者と医療従事者とのつながりの架け橋になれるようなコミュニケーション能力の修得を行い地位の向上を図っていかなければと考えた。

【終わりに】

6 年制教育で学んでいる私たちにとって、4 年制教育を受けて現場に出ている薬剤師の行っているものを基盤に役割や業務内容をさらに深く、そして押し広げていく必要があると考えた。また、病院、薬局の両方で実務実習を行ってきたものとして、薬剤師同士の連携、他職種との連携、地域との連携の重要性を考えていかなければならない。しかし一方で、行政や研究等での薬剤師の

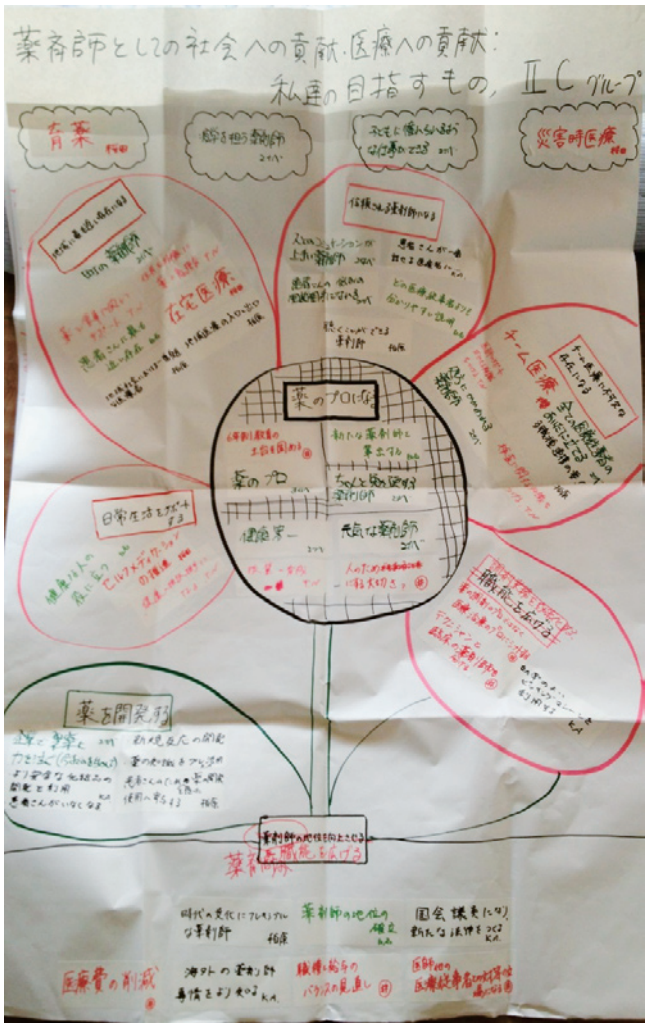
役割が見えていなく、病院や薬局についての内容に偏ってしまった。
薬薬薬薬薬…連携というものをあげたが、実際にどのような人や業種などと連携がとれるのか、次の部で話し合いたいと考えた。

ⅡC班

「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私たちの目指すもの」というテーマについて、KJ 法を用いて意見交換・整理を行った。その結果、薬剤師の職能を広げるという島を土に見立てた。薬剤師として医療に貢献するためには環境・地盤がしっかりしていないといけないということで、この島を土と表現した。そして、この土から咲く花では私達が薬剤師としてどうあるべきかを表現した。薬剤師として目指すもとしては、薬のプロになり、チーム医療に不可欠な存在になることや、地域医療に貢献できる薬剤師になることなどが挙げられた。さらに我々の班では、「チーム医療に不可欠な存在になる」と「薬剤師の職能を広げる」という島を掘り下げて、プロダクトの作成を進めた。議論全体を通して、薬剤師の薬学以外の知識不足や地位向上に関する内容の議論が多かった。

1. 島の名前とカードの内容

1) 薬のプロになる
   1-1) 6 年性教育の土台を固める
   1-2) 健康第一、元気な薬剤師
   1-3) 後輩の育成、新たな薬剤師を輩出する
   1-4) 勉強する薬剤師
2) 日常生活をサポートする
   2-1) 健康な人の役に立つ
   2-2) セルフメディケーションの推進
   2-3) 健康の相談相手になる
3) 地域にもっとも近い存在になる
   3-1) 町の薬剤師
   3-2) 在宅医療
   3-3) 薬と食事のサポート
   3-4) 住民を対象にした薬の勉強会
   3-5) 地域における一番身近な医療人
   3-6) 地域医療の入口と出口
   3-7) 患者さんに最も近い存在
4) 信頼される薬剤師になる
   4-1) 人とのコミュニケーションが上手い薬剤師
   4-2) 患者さんが一番話せる薬剤師
   4-3) 患者さんの悩みの相談相手になる



4-4)　どの医療人よりもわかりやすい説明

4-5)　聴くことができる薬剤師

5)　チーム医療に不可欠な存在になる

5-1)　チーム医療

5-2)　医師のサポートができる知識をつける

5-3)　処方にかかわれる薬剤師

5-4)　検査に関する知識をつける

5-5)　多職種連携の要

5-6)　全ての医療従事者の間にたてる

6)　調剤業務を効率化する

6-1)　調剤のプロではなく、医療・治療のプロにシフトする

6-2)　テクニシャンと臨床の薬剤師を分ける

6-3)　効率の良いピッキングマシーンを利用する

7)　薬を開発する

7-1)　企業で製薬に力を注ぐ

7-2)　より安全な化粧品の開発と利用

7-3)　新規反応の開発

7-4)　患者を思った薬の開発や使用に寄与する

8)　薬剤師の職能を広げる

8-1)　医療費の削減

8-2)　時代の変化にフレキシブルな薬剤師

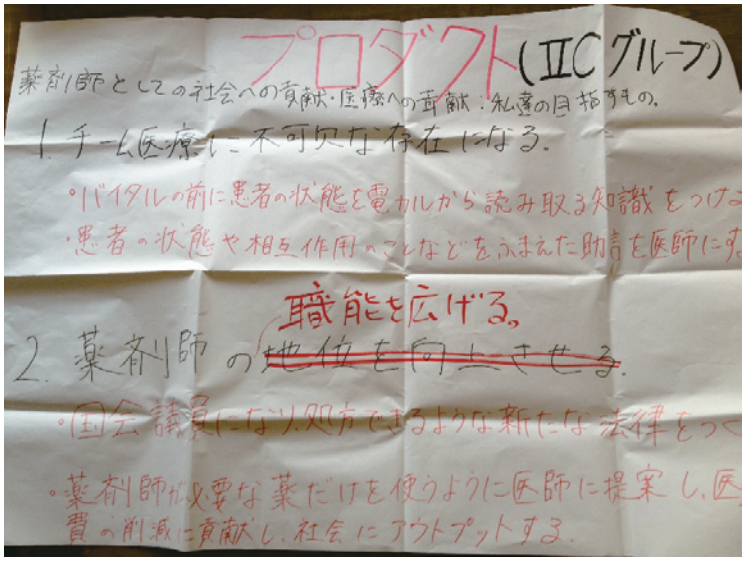
8-3)　海外の薬剤師事情をより知る

8-4)　薬剤師の地位の確立

8-5)　職種と給与のバランスの見直し

8-6)　国会議員になり新たな法律をつくる

8-7)　医師を含め、他の医療従事者と対等の立場になる



2．プロダクト

1)　チーム医療に不可欠な存在になる

1-1)　バイタルの前に患者の状態を電カルテから読み取る知識をつける

1-2)　患者の状態や相互作用のことなどを踏まえた助言を医師にする

2)　薬剤師の職能を広げる

2-1)　国会議員になり処方できるような新たな法律をつくる

2-2)　薬剤師が必要な薬だけを使うように医師に提案し、医療費の削減に貢献し社会にアウトプットする

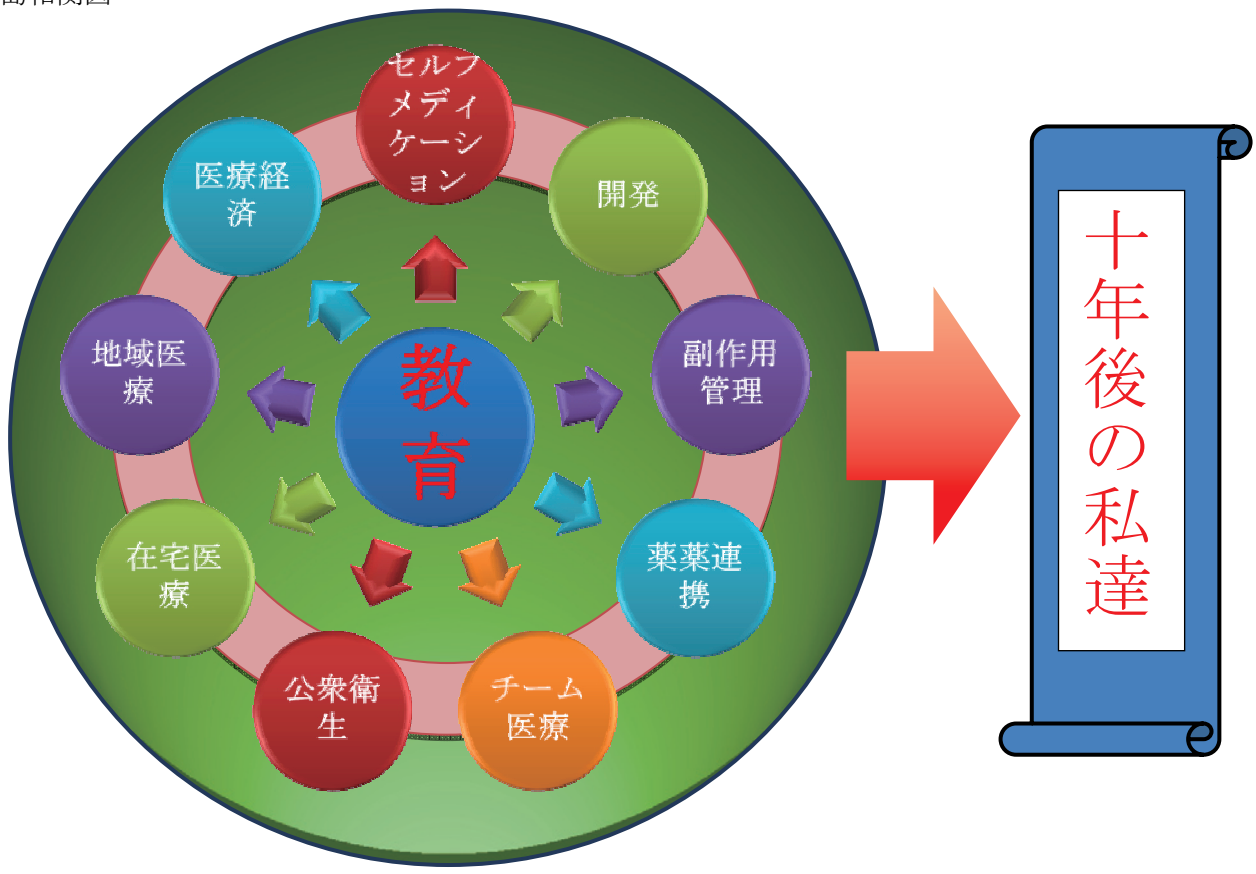
ⅢA班

我々が目指す「**10 年後の私たち**」は「**どんな分野に進んでも現場を知っているといえる薬剤師**」であり、その目的達成の根本には「**教育**」が必須であるという考えに至った。KJ 法を用いてグループ討論を交えながら、島相関マップとプロダクトを作成した。その経緯について報告する。

６年制薬学教育を受けた２期目の学生がこの３月に卒業し、今後もますます６年制薬学教育を受けた薬剤師の社会貢献・医療貢献が期待される。しかしながら、6 年制薬学教育が移行して８年目にいたる現在でも、実務実習の実習受け入れ機関の指導内容のバラツキなど様々な問題点が残っている。

III-A グループでは、テーマにもあるように「薬剤師として社会貢献・医療貢献」をするために「私たちは何を目指して進むべきか」各メンバーが自由にカードへ記載しＫＪ法に従って島ごとに名前を付けて分類、図式化した（各図参照）。さらに今後の薬学教育を強化し社会・医療へ貢献する為の根元の部分、すなわち**「教育」**を中心にディスカッションを行った。

島相関図



ディスカッションを進めてゆく中で**「実習内容を見直す必要性」**が強く感じられた。現在、5 年生は実務実習をそれぞれ1か所の病院と薬局でのみ実施しており、実習機関ごとの指導内容のバラツキが大きいとの意見が共通であった。その意見の中には服薬指導が多岐にわたって十分に学

べた機関と、湿布のみの指導しかできず、そのほかの服薬指導方法を十分に学べなかった機関などの例があった。これらを改善するための施策として、今後は**実習機関をローテーション制**にして１人の学生が2～３か所の実習機関で実習を行うことにより**指導内容のバラツキを均一に保つ**方法が考えだされた。

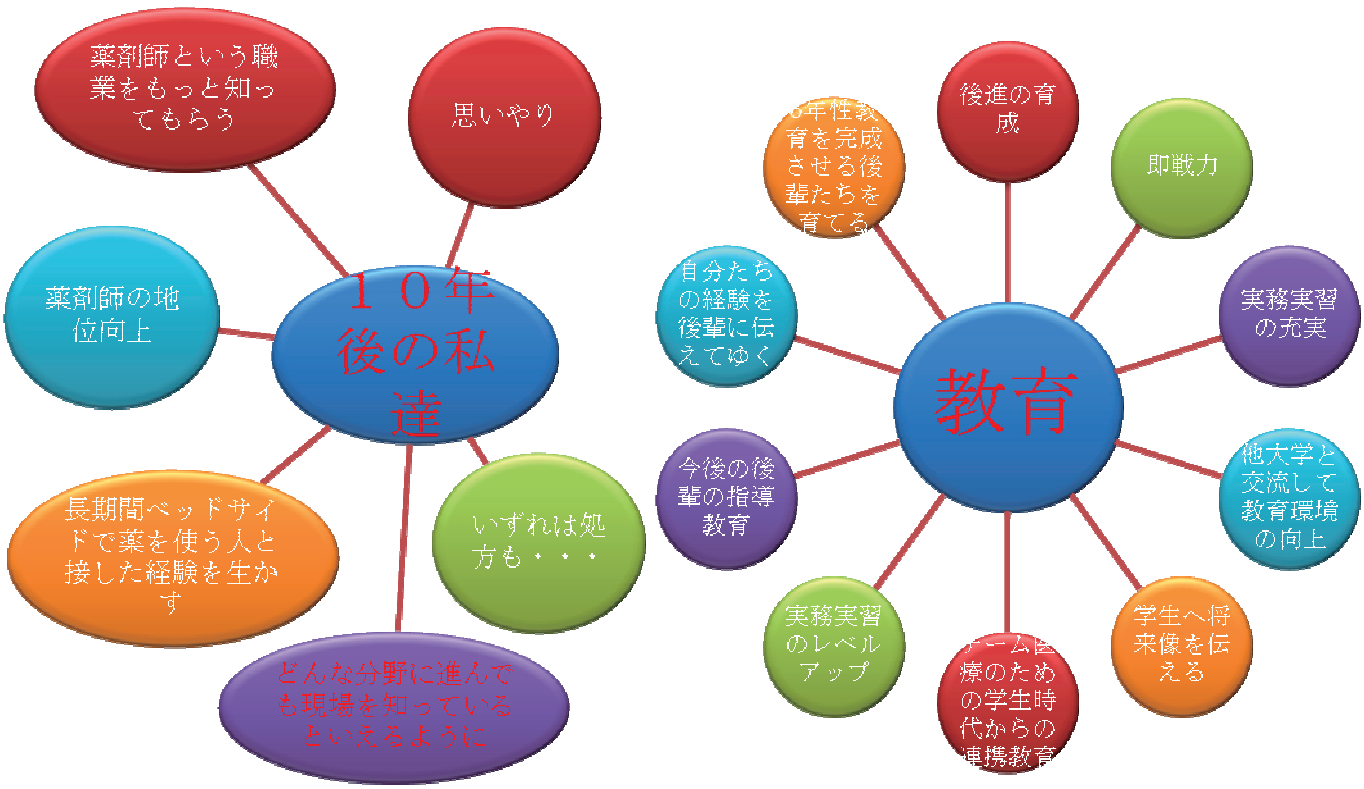
また、**「後輩の教育」**が今後ますます重要になると我々は考えた。6年制薬学教育を受け卒業した人間が今後の教育に積極的に関わる事によって、その**６年間で学んだ経験と各現場での経験を教育現場へフィードバックする**ことにより、多岐の分野にわたる薬学現場に則した6年制薬学教育がさらに充実できることだろうと考えた。

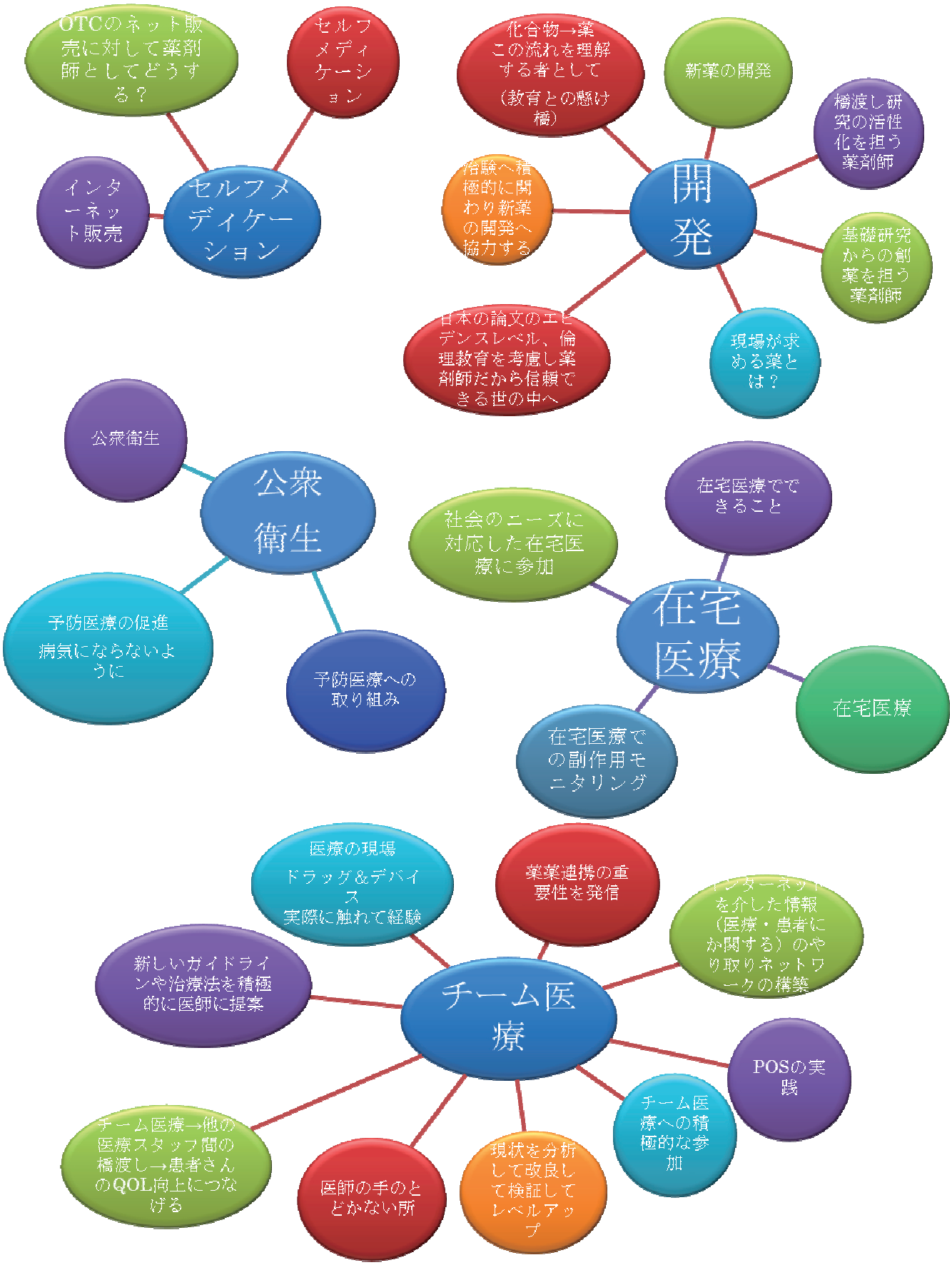
さらに、**「各学年次における教育内容のフィードバック」**も必要だと考えた。これは全国各薬科大学の１～6年生がそれぞれの学年に分かれ全国規模の交流をもつことにより、**学生視点からの薬学教育の情報の共有化をはかり、薬学教育現場にフィードバック**してゆくという考え方である。

以上「教育」を中心として「セルフメディケーション」「開発」「副作用管理」「薬薬連携」「チーム医療」「公衆衛生」「在宅医療」「地域医療」「医療経済」が相互に結びつき、私たちの目指す**「10年後の私達」**になることができると考えた。この「10年後の私達」は島の図に示している**6項目**から成り特に**「どんな分野に進んでも現場を知っているといえる薬剤師になる」**ことで今後、社会・医療へより深く貢献できることと思う。

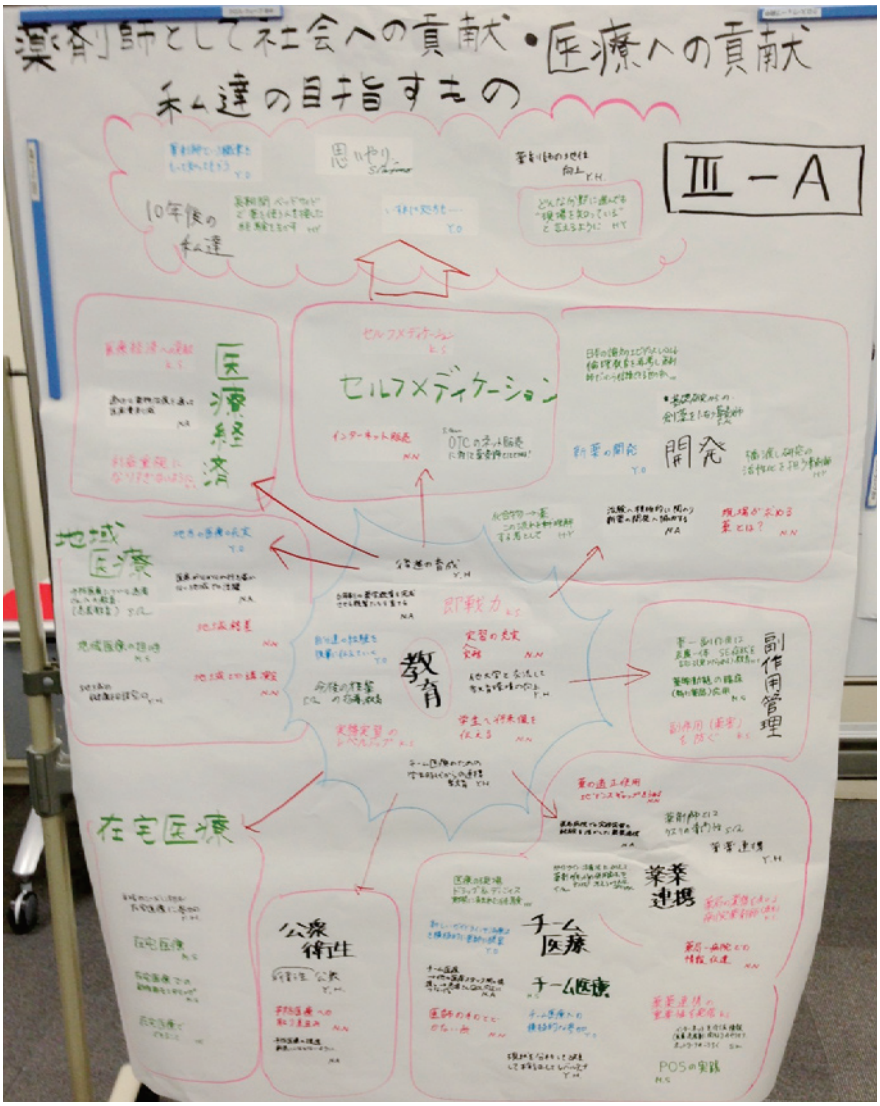
最後にグループⅢ-Aで共に議論した皆様、タスクの徳山尚吾先生、並びに本ＷＳの参加者及び運営に携わったすべての方々に御礼申し上げるとともに、本セッションの報告に代えさせて頂きます。

各島の内容

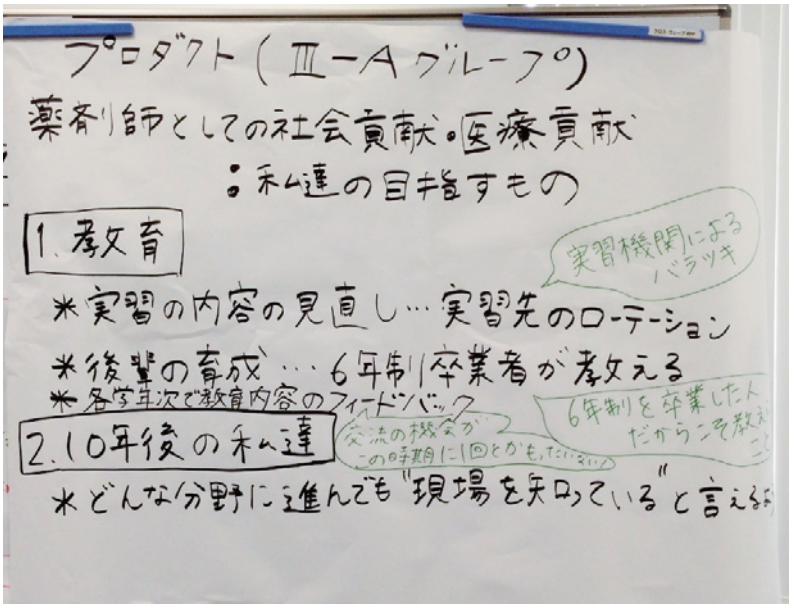



セルフメディケーション
OTCのネット販売に対して薬剤師としてどうする？
インターネット販売
開発
化合物→薬この流れを理解する者として（教育との懸け橋）
新薬の開発
橋渡し研究の活性化を担う薬剤師
基礎研究からの創薬を担う薬剤師
現場が求める薬とは？
日本の論文のエビデンスレベル、倫理教育を考慮し薬剤師だから信頼できる世の中へ
治験へ積極的に関わり新薬の開発へ協力する
公衆衛生
公衆衛生
予防医療の促進病気にならないように
予防医療への取り組み
在宅医療
在宅医療でできること
社会のニーズに対応した在宅医療に参加
在宅医療
在宅医療での副作用モニタリング
チーム医療
医療の現場ドラッグ&デバイス実際に触れて経験
薬薬連携の重要性を発信
インターネットを介した情報（医療・患者にか関する）のやり取りネットワークの構築
新しいガイドラインや治療法を積極的に医師に提案
POSの実践
チーム医療への積極的な参加
現状を分析して改良して検証してレベルアップ
医師の手のとどかない所
チーム医療→他の医療スタッフ間の橋渡し→患者さんのQOL向上につなげる

副作用管理
薬－副作用は表裏一体、SE症状を診る（見つけられる）教育
薬物動態の臨床（特に薬局）応用
副作用（薬害）を防ぐ
薬薬連携
薬の適正使用　エビデンスギャップを埋める
薬局病院での実務実習の経験を活かした薬薬連携
薬剤師としてクスリの専門性
ガイドライン・治療法に加えて。薬剤のキット・デバイスの使用方法を伝える→Ns,コメディカル
薬局－病院との情報伝達（チーム医療と関係）
薬局業務を知る病院薬剤師（逆も）
地域医療
予防医療について患者さんへの教育（患者教育）
地方の医療の充実
医療がなかなか行き届かない地域での活躍
地域の健康相談窓口
地域格差
地域での講演会
地域医療の担い手
医療経済
適切な薬物治療を通して医療費削減
利益重視になりすぎないように
医療経済への貢献


薬剤師として社会への貢献・医療への貢献
私達の目指すもの
Ⅲ－A
10年後の私達
思いやり
医療経済
セルフメディケーション
開発
地域医療
即戦力
教育
副作用管理
在宅医療
公衆衛生
チーム医療
薬薬連携
POSの実践

プロダクト


プロダクト（Ⅲ－Aグループ）
薬剤師としての社会貢献・医療貢献
：私達の目指すもの
1.教育
実習機関によるバラツキ
＊実習の内容の見直し…実習先のローテーション
＊後輩の育成…6年制1卒業者が教える
＊各学年次で教育内容のフィードバック
2.10年後の私達
6年制を卒業した人だからこそ教え
＊どんな分野に進んでも"現場を知っている"と言える

ⅢB班

第二部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」

【目的】

第二部では将来薬剤師として我々が目指すものについて議論を行った。まず目指すうえで必要最低限の技能を挙げていき、それをもとに薬剤師としてどのように社会への貢献・医療への貢献を行うかに関し議論を行いまとめた。

【カードの記載内容】

島は大きく分けて、まず薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献を行う上で信念を基礎とした。次に「連携」を介し「チーム医療」「DI」「薬剤師を知ってもらう」「専門知識」「研究」「まちのお薬情報局」の 6 つに分類した。また小さな島として「即戦力」「認定制度」「その他」の 2 つに分類した。

大きな島

【信念】

○ 度胸
○ 信頼
○ 気軽に話しかけてもらえる薬剤師
○ 意気込みで他職に負けない
○ 人をみる

【連携】

○患者の薬に対する理解向上
○現場と大学（研究所）の協力
○薬剤師ネットワーク
○社会に出てからも個人個人が教育に携わり臨床と大学、大学と大学をつなげる
○薬薬薬連携

【まちのお薬情報局】

○健康
○高齢化、社会におけるセルフメディケーション支援
○OTC
○地域の啓発イベント
○積極的な地域への服薬に関する情報提供

【専門知識】
○ケアマネの所得
○専門的な知識
○習得した知識を医療にフィードバックする
○薬剤師になってからの教育も必要

【薬剤師を知ってもらおう】
○米の様に信頼される職業 1 位を目指す
○発言する機会を失わない
○発言力を高める
○地位向上
○薬剤師の仕事を社会に知ってもらう
○薬剤師の質の向上

【研究】
○ 医療人への積極的な働きかけ
○ 研究、医療への発展
○ 研究者としての臨床へのフィード
○ 薬剤師が他職種へ教育
○ 医療人に対する薬剤師からの教育

小さな島
【即戦力】
○ 医療現場に投入される即戦力
○ 医療現場での即戦力

【認定制度】
○ 認定薬剤師制度の見直し
○ Dr への進学、教育カリキュラム確立のためのモデル
○ 認定薬剤師の更新を義務づける
○ 薬学教育に生涯関わっていく

【その他】
○ 勉強会の実施
○ 研究（カルテ調査など）を通して Dr や Ns に提案
○ 患者目線に立って問題点を解決して行く。
○ 医療費削減

【プロダクト提案までの経緯】

我々の斑では上記に記した島のうち、特に薬剤師の職能について未だ社会において十分に知られていない現状があることを討論の議題として挙げた。ある意見では薬剤師の仕事は袋詰めを行う仕事と思っている患者もおり、薬剤師の職能の広さを理解している人は少ないという意見がでたことから、Ⅲ-C グループでは薬剤師の社会貢献・医療貢献の向上として薬剤師の職能を知って頂き、より薬剤師への相談などの機会を増やす事、また研究のできる薬剤師を育成する事で、結果的にそれが患者の新たな治療法や QOL 向上につながり医療貢献をするという議論となった。

【プロダクト】

【薬剤師を知ってもらおう】

○　メディア（CM など）を通じて地域の人に知ってもらおう。

→日本医師会では TV-CM を行っているので薬学会も CM などメディア活動を通し薬剤師の職能を知ってもらう。

○　市民祭りなどで啓発イベントにもっと力を入れる。

→身近なところで薬剤師を知ってもらえる手段として市民まつり会場に薬剤師に関するブースを設置し市民のみんなに知ってもらう。

○　6 年制卒薬剤師による青年団体を作り、4 年制卒薬剤師に新しい治療法・薬の考え方を共有する。

→6 年制卒薬剤師は 4 年制卒薬剤師が学んでいない項目も学習済みなので 6 年制卒薬剤師が主体となって活動する。

【研究やったるぜ】

○　薬局内で統計調査を行い、患者の声を引き出し、それに対応した講演を研究者が行う。

→薬学部では卒業論文のために実験を行い、中には学会発表をしている学生もいる。しかし仕事を始めると研究で培った技能を忘れていってしまう。その技能を忘れて行かない為にも研究のできる薬剤師を育成していく。

○　引き出した患者の声を臨床に活用し、患者満足度の向上・医師への処方提案に繋げる。

→引き出した声を多く集め、解析する。今患者に最も必要なことを見極め医療従事者に伝える事で、患者の治療や QOL の向上に対する患者満足度を上げて行く。

【結果・考察】

我々の斑では薬剤師による発信力の不足に対する意見が多かった。TV-CM といった非常にコストのかかる発信は現実的に実行が難しいかもしれないが、町単位の集会、お祭りといったイベントに薬剤師が参加する事で市民の方々に薬剤師についてより知ってもらえるのではないかという意見も上がった。また研究に関しては学生時代に研究を行っていたのにも関わらず社会で学んだ事を使わないのはもったいないのではないかと言う意見がでた。

従って我々の斑ではこれから目指すべき薬剤師像として、研究を行う事が出来、またその結果を学会発表を通し情報発信する事が出来る薬剤師を目指すべきではないかという結論にまとまった。

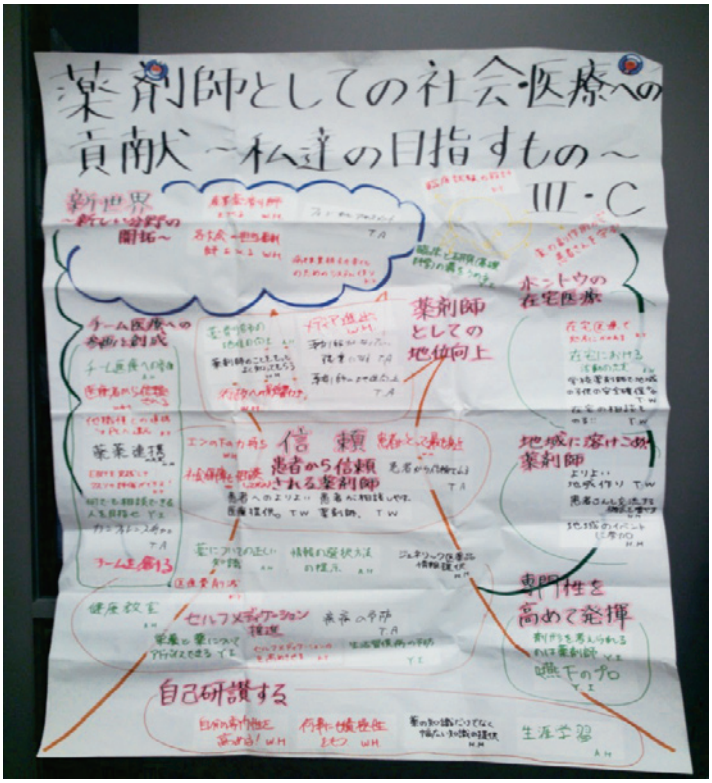
ⅢC班

第二部では、「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私たちの目指すもの」についてKJ 法を用いて討議を行った。

＜議論の経緯＞

はじめに、各々が薬剤師として社会や医療に貢献できることをカードに記載した。その後、似たカードを集めて島を作成し、それぞれの島に名札を付けて情報の整理を行った。

その結果、９つの島といくつかの孤独なカードができた。その際に、６年制薬学部の卒業生として私たちが目指すものには、従来の薬剤師の形に満足せず、新しい分野を開拓していくことがあるのではないかという話になり、それを表現するためのデザインとして樹木のデザインを用いた。



画像１：KJ 法による各島の関係図

様々な意見が出る中で、私たちは６年制薬学部の卒業生が目指すものとして、**「新世界～新しい分野の開拓～」**を選んだ。一般用医薬品のネット販売など、社会のニーズが変化し、また、薬学部も４年制から６年制となり学ぶことも変わっている。それに合わせて、現場も従来の形にとらわれずに新しいことを取り入れていく必要があるという結論に至った。

それぞれの島の関係を考えていく中で、最も基礎的なことであるが、それゆえに重要なこととして、**「自己研鑽する」**といった薬剤師としての成長があると考えた。その薬剤師の成長の上に**「セ**

ルフメディケーション推進」や**「専門性を高めて発揮」**などの薬剤師としての職能の発揮があり、医療や社会に貢献することで**「患者から信頼される薬剤師」**へとつながり、患者だけでなく同じ医療者からの信頼にもつながると考えた。そして、その信頼をもとに**「チーム医療への参画と創成」**を行うことで患者一人一人により良い医療をすることができ、医療への貢献ができる。また、**「地域に溶けこめ！薬剤師」**、**「ホントウの在宅医療」**を通して地域とかかわりを持ち、地域住民の健康維持のために働きかけることで地域への貢献ができる。それらの活動の結果、薬剤師という職業への理解、**「薬剤師としての地位の向上」**へとつながり、地位の向上に伴い薬剤師が新しい分野へと活動範囲を広げ、さらなる社会・医療への貢献につながると考えた。

一つ一つの島をバラバラに見ていると、一見して関係の薄いと感じる島でも、全体を通してつなげてみることで、無関係なものは一つもないということがわかる。それらを踏まえて上の画像のような関係図が完成した。

以下に各島の名前とその島に属する各カードに記載された内容を示す。

「自己研鑽する」

○自分の専門性を高める
○何事にも積極性をもつ
○薬の知識だけでなく幅広い知識の提供
○生涯学習

「専門性を高めて発揮」

○薬の剤型を考えられるのは薬剤師
○嚥下のプロ

「セルフメディケーション推進」

○栄養と薬についてアドバイスできる
○セルフメディケーション力を高めさせる
○生活習慣病の予防
○健康教室
○疾病の予防
○医療費削減
○薬についての正しい知識
○情報の選択方法の提示
○ジェネリック医薬品情報提供

「信頼～患者から信頼される薬剤師～」

○エンの下の力持ち
○社会保障も相談してね
○患者へのよりよい医療提供
○患者が相談しやすい薬剤師
○患者から信頼される
○患者にとって最も身近

「地域に溶けこめ！薬剤師」	
○よりよい地域作り	○地域のイベントに参加
○患者さんと交流する機会を増やす	○学校薬剤師で地域の子供の安全確保

「ホントウの在宅医療」	
○在宅医療で処方にかかわる	○在宅の相談ものる
○在宅における活動の充実	

「チーム医療への参画と創成」	
○チーム医療への参加	○何でも相談できる人を目指せ
○医療者から信頼される	○カンファレンス参加
○チームを創る	○他職種との連携→Pt への還元
○薬薬連携	○EBM を実践して薬の評価ができる

「薬剤師としての地位向上」	
○メディア進出	○薬剤師の地位の向上
○薬剤師のことをもっとよく知ってもらう	○薬剤師の地位向上
○薬剤師がなりたい職業になる	○行政への影響力

「新世界～新しい分野の開拓～」	
○産業薬剤師を作る	○各大会の担当薬剤師を作る
○フィジカルアセスメント	○病棟業務効率化のためのシステム作り

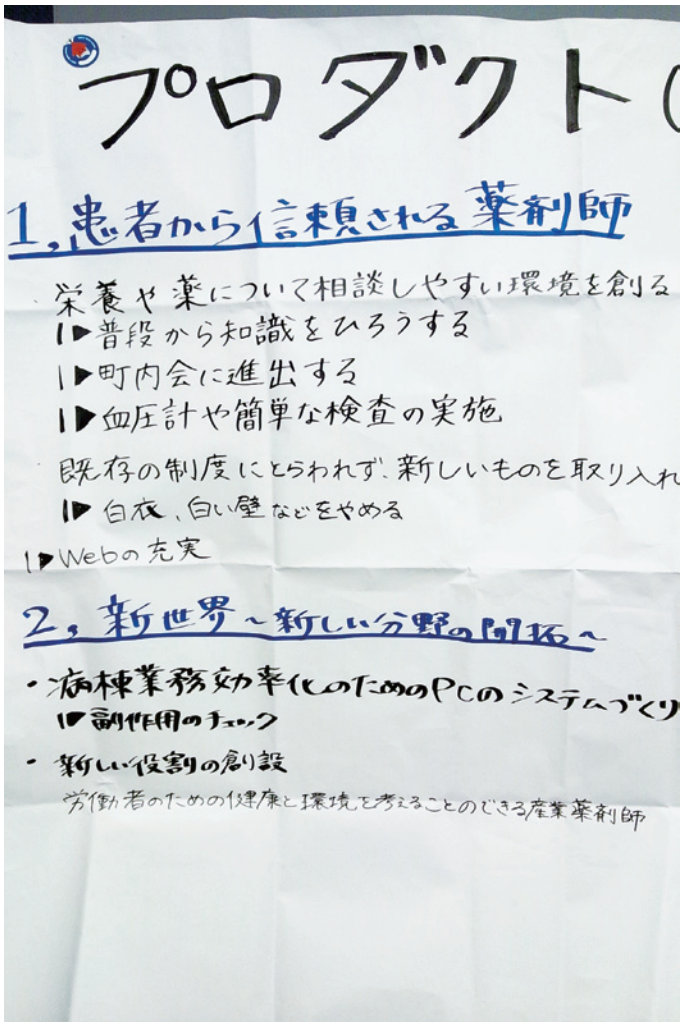
「孤独なカード」	
○臨床試験の設計	○臨床と研究（基礎科学）の溝をうめる
○薬の副作用から患者さんを守る	

その後、９つの島から**「患者から信頼される薬剤師」**と**「新世界～新しい分野の開拓～」**の２つの島の内容の具体化を行った。

患者から信頼される薬剤師の具体案は、まず信頼してもらうためには話や相談を受ける必要があるため、相談しやすい環境を創るという意見があった。患者にリラックスしてもらうために白衣をやめる、薬局の内装を白ではなく木目調にするなどの見た目を変える案や、普段から知識を披露する、町内会へ進出するなどの患者に直接働きかける案が挙げられた。

新しい分野の開拓の具体案には、病棟業務効率化のための PC のシステム作りや、産業薬剤師などの薬剤師の新しい役割の設置などの案が挙げられた。

下の画像が２つの島の具体案のプロダクトである。

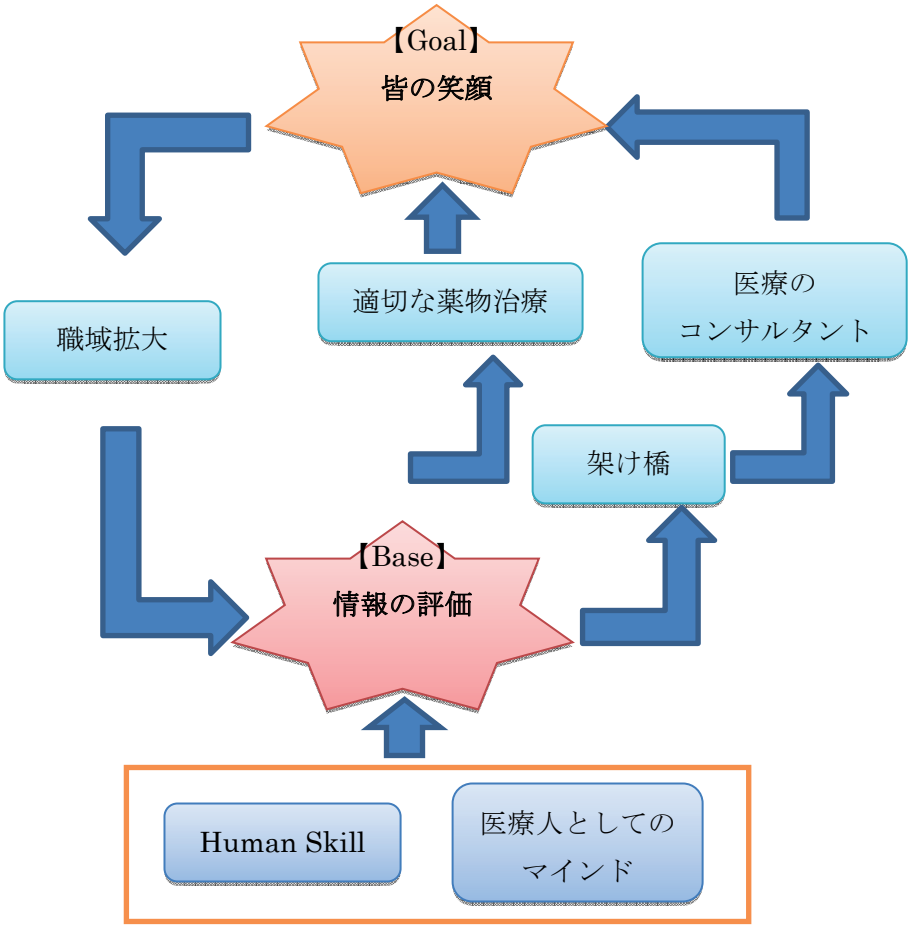


画像２：各島の具体案

Ⅳチーム（１期生）

【議論の詳細・経緯】

KJ 法を用いて各メンバーの意見を抽出し、似たカードを集めて「島」を作成した。結果的に島は８つに分かれ、各島の関連図は以下に示した通りとなった。



我々の班は、病院薬剤師３名、大学院生２名、医薬情報担当者（MR）１名から成るメンバーで構成されていた。最初に、各々の目指すべきゴールについて議論した。各々が日々取り組んでいる業務は異なるが、**目指すべきゴールは共通して「患者の笑顔」**であることを確認した。その上で、どの道に進んだとしても共通して求められるスキルは何か、という議論へと展開した。挙げられた意見として「Human Skill」や「医療人としてのマインド」にまとめられるものが多く、これらは社会人として当然身に着けておくべきスキルであるため、関連図の根底に配置することとした。

医薬品の製造・開発・使用等の全ての過程において、「情報」は欠かせない要素である。医薬品に纏わる情報には正しい情報もある一方で、誤った情報も存在している。そこで、我々は**「情報の評価」**の島に着目した。自身が入手した情報が正しいものであるか判断できなければ、患者および他の医療従事者に対し誤った情報を提供し、結果的に患者が不利益を被る恐れがある。患者

に対して薬物治療を提供する上で、病院薬剤師、大学院生、MR の各々の業務は全て密接に関わりあっているため、我々は職種に関係なく、情報を正しく評価し、適切な情報を提供できる能力が求められる。

適切に情報を処理する能力が根底にあってこそ、正しい情報に基づいた適切な薬物治療の実践が可能となり、ゆくゆくは患者・他の医療従事者の笑顔へとつながる。その積み重ねによって、薬剤師に対する患者や他の医療従事者からの評価が高まり、新たな職能の発展へとつながる。更に、新たな職能・業務の積み重ねから得られた結果・課題を再び「評価」することで薬剤師の職能を薬剤師自身でフィードバックし、より質の高い薬物治療の実践へとつなげていけるだろう。こうした**「情報の評価」を起点としたサイクル**を繰り返していくことで、患者に対してより良い薬物治療を提供し、患者の笑顔を取り戻すことが、我々の薬剤師として目指すべき貢献像であると結論付けた。

以下に各島のカードを提示する。

【各島の詳細な意見】

① 「Human　Skill」

・あいさつ　　・会話　　・接遇　　・他人に愛を　　・近くにいる人ほど優しく
・見た目が 9 割　　・患者の見方は変わらない　　・視野は狭く、広く
・全てを知る　　・隙間を埋める

② 「医療人としてのマインド」

・「薬剤師」としてだけでなく「医療人」として
・研究テーマはあちこちに
・薬剤師しかできないことを大切に
・誇りを持つ

我々は医療人として上述した目的を果たすために、社会人に共通して備えておくべきスキルが大前提として重要であるという意見が多く挙がったため、これら島を関連図の根底に配置した。あいさつ等のコミュニケーションスキルのみならず、薬学以外の幅広い分野の知識をつけておくことも患者さんとの対応において重要な役割を果たす。加えて、薬学のプロフェッショナルとしての責務を全うする意識を持つとともに、他職種の仕事を理解することでチーム医療を円滑に実行するための努力を重ねる必要があるという見解で一致した。(島①、②)

③ 「情報の評価」

・批判的吟味
・Evidence の評価
・最近の情報収集
・発現に責任をもつ

上述のように、我々はこの島が最も重要であると結論づけた。情報を評価する上では、一つではなく複数の情報源を辿り、どの情報が正しい情報かを見極める必要がある。情報の評価を行う上で必要なスキルに関しても話題に挙がったが、その詳細は第 3 部の報告書にて報告しているため本セッションでは割愛する。(島③)

④ 「架け橋」
- 医療施設と国民との架け橋
- 医療スタッフ間の橋渡し

⑤ 「適切な薬物治療」
- 副作用のモニタリング、マネジメント
- 治療の有効性評価
- 聴診器をもった薬剤師
- 苦痛を減らす
- 処方監査
- 患者の生活リズムに合わせた指導

⑥ 「医療のコンサルト」
- 薬のない医療
- 患者さんの相談役
- 適切な受診勧告
- 薬育
- OTC・サプリメント・健康食品
- 「未病」の重要性を伝えていく

薬剤師として患者の治療に貢献するにあたって、医療用医薬品のみならず、OTC・サプリメント・健康食品に関する相談を受けることがある。更には医薬品だけでなく、疾患に対する相談も受ける場合があるだろう。患者に対し、なぜ薬物治療が必要なのか、どうすれば治療が成功するのかを理解してもらうことで、患者に治療への積極的な参加を促すことも薬のプロフェッショナルとして重要であるという意見が挙がった。(島④、⑤、⑥)

⑦ 「皆の笑顔」
- 笑顔になってもらう
- 患者さんの希望を 1 つでも叶える
- 「ありがとう」の医療

異なる職種に就いていても、我々が薬剤師として目指すべき共通のゴールがこの島のカードである。島のタイトルを「皆」としたのは、患者だけではなく患者の家族、医療従事者といった関

係者全員に利益をもたらすことが重要いう意見が挙がったためである。(島⑦)

⑧ 「職域拡大」

・採血ができる薬剤師
・ワクチンを打てる薬剤師
・「算定外」での訪問を当たり前に
・6 年制への移行は変化のきっかけ

薬剤師の職域を拡大することで、患者に更に質の高い薬物治療を提供できるのではないかと意見が挙がった。しかしながら、上述のカードの意見を実践するには法的な規制を変える必要がある。そのためには、現状の薬剤師が行うことができる業務の積み重ねによって、国民や政府から少しずつ信頼を獲得していかなければならないと結論付けた。「算定外の訪問」という意見は、診療報酬および調剤報酬の算定の対象外となる業務の中にも患者にとって意味のある業務が存在しているため、算定にとらわれずに患者の信頼を勝ち取っていく必要があるというものであった。

Ⅳチーム（２期生）

第二部「薬剤師としての社会への貢献･医療への貢献:私達の目指すもの」（１）

今回のＷＳに参加した私たち２期生は、６年間の薬学カリキュラムを経て、企業や病院、薬局・ドラッグストア等への就職のほか、大学院への進学を果たしている。これら多様な進路に進んでまだ４か月であるが、現時点で私たちが目指すべき薬剤師像を話し合った。

この討論は、第１部で行ったワールドカフェの影響を強く受けている。それは、１期生の先輩が自身の将来についての話をしてくれた時に繰り返していた「アピール」という言葉によるものである。アピールとは換言すれば、情報発信である。私たち薬剤師は、日々の業務の中で常に情報を発信し続けることを求められている。しかし、その発信が十分に行われていないものがある。それは、薬剤師という職種についての情報発信である。これからの薬剤師は、医薬品等の情報発信だけでなく、薬剤師という職種についての情報を社会に発信し、社会の正しい理解に基づいた適正な医療を提供するために行動しなければならない。そこで、この第２部では、目指すべき薬剤師像に必要な知識や技術といった能力以上に、薬剤師として行うべき行動を重視して検討を行っている。おそらく、去年の私たちであれば、知識・技術に比重を置いて検討していたところであるが、今回は薬剤師として働くなかで強く感じている情報の発信不足を主軸に、このテーマを検討することにした。

【議論の経緯】

ＫＪ法によりカードを出し合ってみると、薬剤師がその内に〔専門性〕として備えておくべき内向的意義を持つものと、薬剤師がその外に与える外向的意義を持つものに分けられる。さらに、外向的意義をもつものは、その対象によりそれぞれ〔患者への貢献〕〔医療者〕〔社会〕と、それらすべてを対象とする〔アピール〕とに分けることができる。この方法は、カードを、①その意義が薬剤師の内外のどちらであるか、②それが外であるときにはその対象が何であるか、によって分類するものであるが、これにはなじまないものを［孤独のカード］とした。このカードは、その他のカード全てに共通して当てはまるものであったことから、プロダクトにおいては、万物に光を降り注ぐ太陽として位置付けられた。〔医療者〕〔患者〕〔社会〕は、お互いの関係性を保ちながら山と海に囲まれた平地に広がっており、これらに向かって山頂にある電波塔から〔アピール〕が発信されている。〔専門性〕は深めるものであることから海として表現したが、海と陸地との直接の関係性は考えていない。

内容の具体化では〔アピール〕と〔医療者〕について詳しく検討することにした。薬剤師の存在や職能、その可能性を広く発信することで、社会における薬剤師への正しい認識が形成され、医療・福祉の最適化が果たされると考えられる。このような社会への貢献の前段階には患者への貢献があり、さらにその前には医療者への貢献が存在している。これら一つひとつの段階を踏んで薬剤師への理解が形成されていくことを考慮して、その最初の段階である〔医療者〕と、その全段階に関わる〔アピール〕の２つを具体化することにした。

〔医療者〕

・他職種への理解を形成し、深めることが大切。彼らの専門性や経験を知ったうえで、薬剤師との差別化を図る。
・薬剤師は治療の現場へと進出する必要性がある。調剤室での疑義照会ではなく病棟での処方提案へと、治療の先を読んだ業務展開を図る。
・薬剤師の常識、医療者の常識にとらわれない。薬剤師を含む医療者の業務の適正化、効率化を図ることにより、いわゆる適材適所を達成し、患者への利益の還元を図る。

〔アピール〕

・薬剤師は病院、薬局から飛び出し、地域における公衆衛生の促進活動等をとおして、薬剤師を身近なものとして認識してもらう。
・医薬品のことだけではない！薬剤師は生活指導や栄養指導も担っていることを知ってもらい、その職能の多様さをアピールする。
・薬剤師は研究活動や学会発表を行う科学者である。臨床と研究は常にリンクしており、研究なくして臨床は成り立たない。医療者であり科学者である薬剤師の可能性を他職種だけでなく、患者や社会にまで広くアピールする。

【カードについて】

〔専門性〕

・臨床での薬の使い方を知る
・薬について知る
・副作用 check
・動態
・製剤学
・薬のプロ

〔患者への貢献〕

・心の薬となる
・患者の声に耳を傾ける
・身近な相談相手
・対象は患者だけでなく社会だ！　←おそらく〔社会（への貢献）〕との貼り間違い
・薬だけでなく医療の相談も薬剤師
・薬剤師は noble でなく valuable と useful で

〔医療者（への貢献）〕

・新人からの業務提案
・意見をぶつけることを恐れない
・慣習だからこそ考え直す
・新しい薬学
・他職種について知る
・処方提案

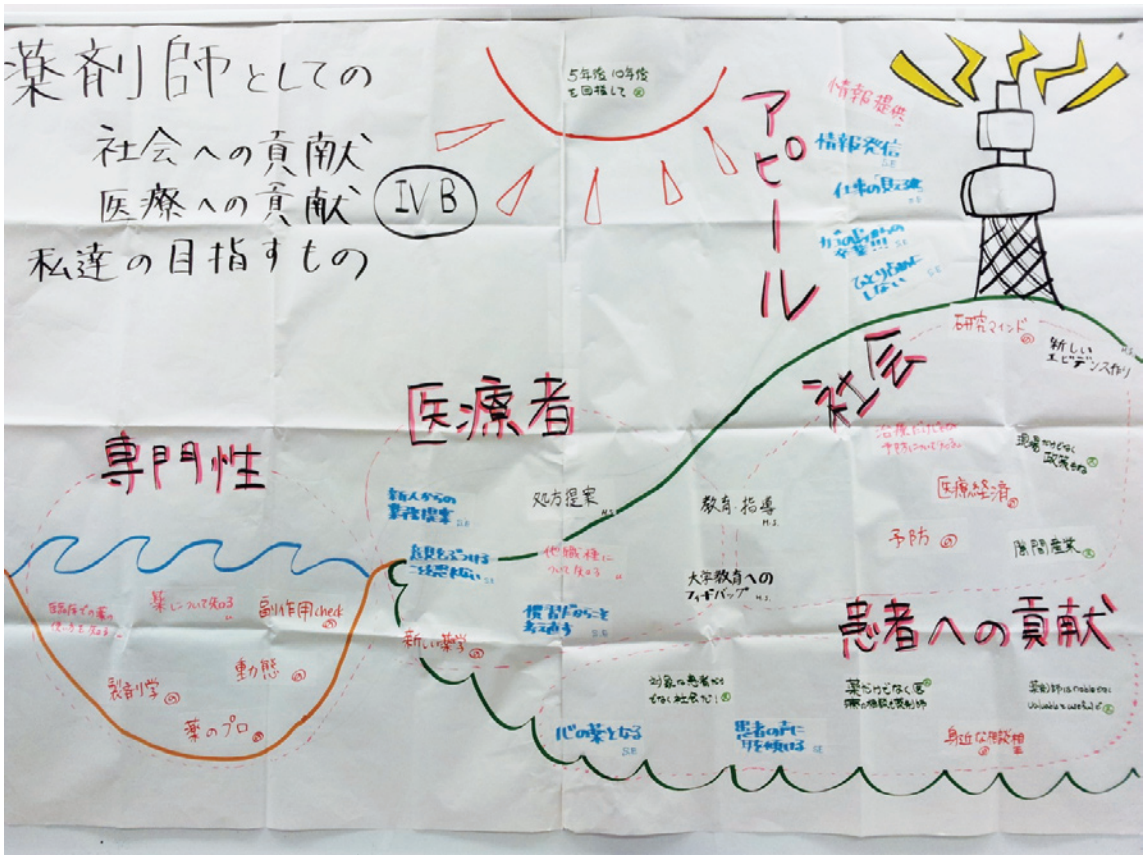
・教育・指導*
・大学教育へのフィードバック*
〔社会（への貢献)〕
・治療だけじゃなく予防について知る
・予防
・研究マインド
・医療経済
・現場だけでなく政策もね
・隙間産業
・教育・指導*
・大学教育へのフィードバック*　　*は複数の島にかかるもの
〔アピール〕
・情報提供
・情報発信
・仕事の「見える化」
・カゴの鳥からの卒業!!!
・ひとり占めにしない
［孤独なカード］
・５年後１０年後を目指して

【結論】

薬剤師として目指すものの中でとりわけ重要なもの、それはアピールである。もちろん、他の医療者への貢献、患者への貢献を通して、社会への貢献を実現することが最大の目標であり、そこへ至る過程においてアピールは必要条件となる。貢献とは、立場をかえて言えば、利用することであり、例えば社会への貢献は、社会が薬剤師を利用することである。利用して役だったからこそ貢献なのである。そのためにはまず、利用する側が薬剤師についてよく知っていることが必要であり、薬剤師が役に立つということをアピールして薬剤師を知ってもらわなければならない。利用価値を認識されることが貢献への第一歩である。もちろん、薬剤師としての専門性を備えていることが大前提となる。

【終わりに】

第２部テーマ「私達の目指すもの」は、１期生は勿論のこと、２期生３期生とも、おそらく同じことを想定していると思われる。私達が目指すものは、医療への貢献であり、社会への貢献である。そして、それを実現するプロセスは実に多様であり、どれが正しいかを決めることはできない。その多様なプロセスの中で私達は、薬剤師のアピールに焦点を当てた。現在、どれだけの医療者が薬剤師のことを正確に理解し、そして、どれだけの患者さんが薬剤師のことを必要としているのか。今回のＷＳでは、薬剤師に求められる知識・技能以上に、薬剤師としてなすべき大切なことに気づくことができたと思う。



第二部「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献：私達の目指すもの」（２）

第二部では「薬剤師としての社会への貢献・医療への貢献： 私たちの目指すもの」について、KJ 法を用いて意見を出し合った。

【議論の経緯】

はじめに、できる限りたくさんの意見を書き出す作業を行い、その後、一つ一つの意見を読み上げながら分類分けして島を作っていった。その過程でどこに分類すべきか迷う意見があった場合は、意見の発案者に詳しい説明をしてもらい、どの島が近いのかまたは孤独の島になるのかを決めた。我々の班では、島を到達ポイントに見立て、富士山における登山でプロダクトを表現した。基本として必要な到達ポイントを麓に置き、最終到達ポイント（頂上）を目指すように表現した。また、孤独の島は雲に見立てた。

以下に到達ポイントとしてまとめられた島と、それに関連するだろうと話し合われた意見を示す。

到達地点

・健康な世界
・患者の幸福
・心配、不安を取り除ける場の提供

さらなる安全の確保

・副作用への緩和ケア
・オーファン医療
・副作用の発見

・QOL の向上
・副作用減らす

新規治療への貢献
・医療発展への貢献
・先進医療アクセスの機会
・新薬開発
・オーダーメイド医療

医療費削減
・医療費削減
・在庫管理

情報提供
・情報発信
・他職種への情報提供
・求められているものを提供

連携
・政治へ介入
・薬剤師同士の連携
・他職種との連携
・病院、薬局、ドラッグ、メーカー、CRO 全てで医療
・世の中からの信頼

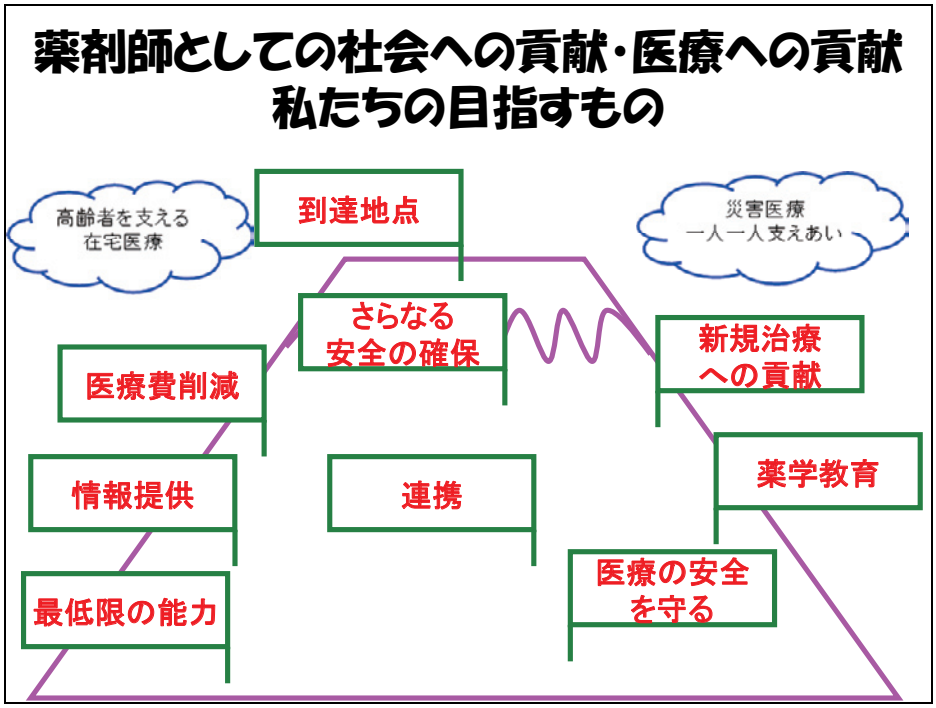
医療の安全を守る
・「適切な」薬物
・適切な医療のススメ
・薬に対する責任
・薬物療法の適正化
・食の安全、薬の安全

薬学教育
・教育の充実
・次世代の育成

最低限の能力
・医療の Needs を見極める
・生活に入り込んだ相談
・報連相
・広い視野
・気遣い
・コミュニケーション能力
・リスクマネジメント
・日々の勉強

雲(孤独の島)
・災害医療
・一人一人支えあい
・高齢者を支える
・在宅医療

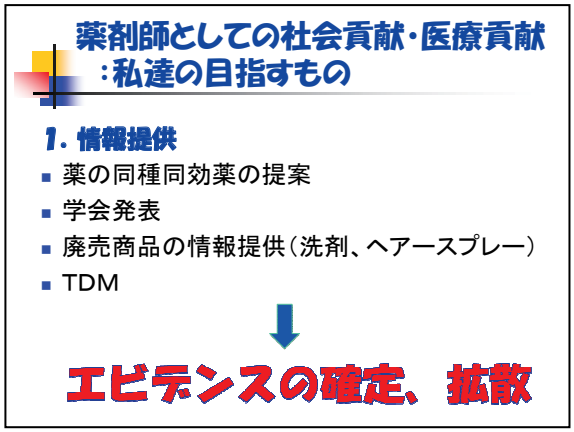
【プロダクト概略図】



プロダクトを登山で表現した意図として、最終的に目指す目標があることが挙げられた。最低限の能力を基礎としてスタートしさまざまな到達ポイントを経て、頂上を目指す。そのルートは職種によりそれぞれ異なるであろうと話し合われた。

【プロダクトの具体化】

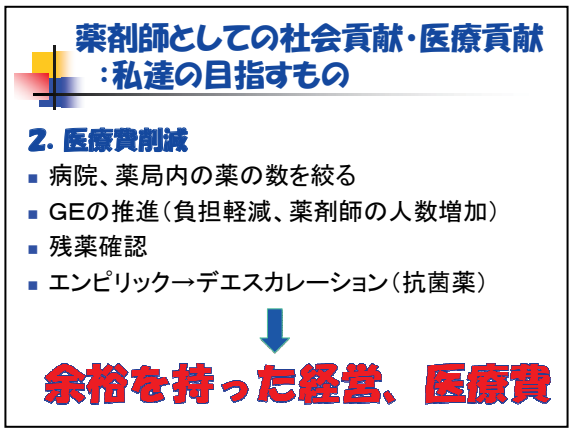
発表に際し、プロダクトにおける到達ポイントについて具体的な内容をグループで考えて、スライドにまとめた。全ての項目についてではなく、どの職種においても目指すことができる到達ポイントとして、「情報提供」、「医療費削減」、「更なる安全の確保」が挙げられた。



1．情報提供

病院において、薬の同種同効薬の提案や TDM が挙げられた。薬局やドラッグストアにおいては、お客様に対する廃売商品の情報提供といった意見も挙げられた。

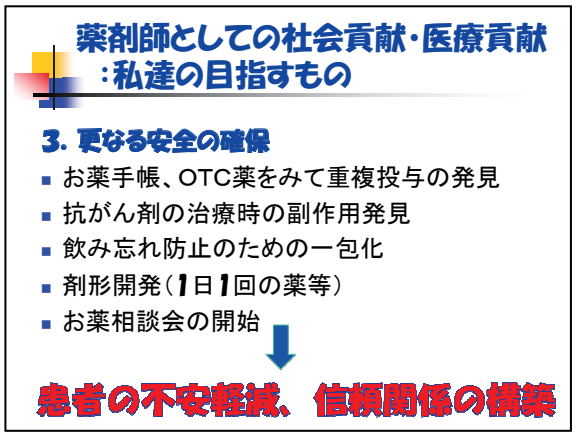
また、大学院や病院、薬局において情報提供としての学会発表をすることでエビデンスをつくり、拡散することが大切だと考えた。



２．医療費削減

薬の数を絞ったり、ジェネリック（GE）医薬品の推進をしたりすることで、余裕を持った経営や医療費の削減に繋がると考えた。

また、在宅における残薬の管理やエンピリックセラピーにおいて抗菌薬のデエスカレーションをすることでも医療費の削減に繋がると考えた。



３．更なる安全の確保

具体策として重複投与の発見や副作用の発見が挙げられた。また、アドヒアランスを向上させるために一包化や、服用しやすい剤形の開発という意見も挙げられた。

さらに、お薬相談会を行なうことで患者さんの不安を軽減し、患者さんとの信頼関係を構築することで更なる安全を確保できるのではないのかと考えた。